

2021 年度
インターンシップ・プログラム
実施報告書

2021 年 12 月



公益
財団
法人

大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

ごあいさつ

2021 年度インターンシップ・プログラムの実施にあたり、ご協力を賜りました企業・団体や大学、その他関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

お蔭をもちまして、今年度は253名の大学生が就業体験をさせていただく機会を与えていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響下でありましたが、学生はそれぞれの経験を通して社会人基礎力を身に付けたことを確信しております。

受入先、学生の双方がよりメリットを享受できるプログラムとして、発展できるよう皆様より引き続きご理解とご協力を賜りたく、今年度のインターンシップ事業の実施状況を本書にまとめました。ご高覧いただければ幸いに存じます。

長期プロジェクトコース 総合コーディネーター

桜沢 隆哉

京都女子大学 法学部 教授



長期プロジェクトコースでは、受入先企業・団体が提供するプロジェクトの最終目標を達成するため、学生が主体的に「計画」を立て、それを「実行」していきます。とくに実行する過程では想定外の困難に直面し、計画の甘さや実行力など様々な課題も明らかになってきます。この課題に気付くことこそが自分自身が成長するきっかけになるのだと考えています。

今年度も長期にわたるプロジェクトで学生を受け入れて下さった受入先企業・団体に感謝申し上げます。今後ともご指導、ご協力のほど何卒宜しくお願い申し上げます。

ビジネスコース 総合コーディネーター

多田 実

同志社大学 政策学部 教授



コロナ禍による混乱が続く中、おかげさまで、今年度も受講生の成長が実感できるプログラムになりました。インターンシップが就職活動に直結している「就活前哨戦」のような感覚で捉えている学生が増えている昨今ですが、本プログラムでは、当初から一貫して「教育プログラム」であることを念頭に置いており、単なる「社会人体験」ではなく受講後の学生生活を考える一助となることを願っております。今後とも皆様のご支援ご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。

パブリックコース 総合コーディネーター

古川 秀夫

龍谷大学 国際学部 教授



パブリックコースでは、公共性や社会貢献を志向した実習プログラムが地方自治体や非営利組織から提供されています。受講生は、実習を通して公務員やNPO 職員へのキャリア意識を醸成することとどまらず、市民の一員として享受する行政サービスの重要性やNPO の存在意義なども認識します。近い将来どんな職業に就いたとしても、受講生の全てが公共心あふれた善き市民になることを強く念願し、確信するものであります。

目 次

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷……	1
第2章 2021 年度インターンシップ・プログラムの実施内容 ……	2
1 プログラムの概要……	2
2 長期プロジェクトコースの実施内容……	3
3 ビジネスコース・パブリックコースの実施内容……	5
4 プログラムの運用にあたって……	5
第3章 受入企業・団体のアンケート結果から……	8
第4章 受講生のアンケート結果から……	14
第5章 今後の課題……	27
1 インターンシップを巡る現状……	27
2 財団プログラムの現状……	27
<資料>	
資料1 出願者・受講者数と受入れ企業・団体数について……	28
資料2 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター(CO)数の推移……	29
資料3 受入先登録企業・団体一覧……	30
資料4 長期プロジェクトコース講義概要……	32
資料5 長期プロジェクトコースプロジェクト別コーディネーター一覧……	33
資料6 ビジネスコース・パブリックコース講義概要……	34
資料7 ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧……	35
資料8 受講生意識調査集計結果……	36

第1章 公益財団法人 大学コンソーシアム京都 インターンシップ事業の変遷

公益財団法人 大学コンソーシアム京都（以下「本財団」という。）が窓口となって実施するインターンシップ・プログラム（以下「本プログラム」という。）は、1997年に当時の通商産業省・文部省・労働省が合同で「インターンシップ推進にあたっての基本的な考え方」を取りまとめたことと並行して、本財団に「インターンシップ制度研究会」を発足させたことにはじまる。この研究会における検討の結果、インターンシップは「来るべき新時代に向けての産官学地域等が協働で構築する新たな人材育成を目的とする社会的制度であり、高等教育改革に資するプログラム」であるとして1998年度より本格的に始動した。

本プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学地域連携による教育プログラムとして実施してきた。実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的として、単なる就職のためのインターンシップではないことを強調している。これらの目的遂行のため、コーディネーターと事務局の協力による事業推進、受入先への訪問や意見交換会の実施、修了生や受入先担当者のゲストスピーカーとしての招聘、ニーズと社会情勢に応じたプログラムの改変、マッチングや事務処理の効率化のための事務システム導入などに努めてきた。中でも、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響から、各種オンラインシステムを積極的に活用してプログラムを運営した。

これまでに京都地域にある大学・短期大学（以下「大学」という。）のすべての学生が参加できるというスケールメリットを活かして、延べ5,900を超える企業や行政機関、非営利組織などの協力のもと、約1万名の学生が参加し、受入先や大学、学生、指導するコーディネーターなどの意見を反映しながら、毎年検討を積み重ねてプログラムの改善を図っている。また、2005年度には、大学共同の取り組みとして、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」に選定されるなど、社会的にも教育プログラムとして高い評価を得ることができた。

インターンシップは、本プログラムの開始以降、全国の大学でも独自の取り組みが進められている。現在インターンシップを実施している大学は、大幅に増加しており、インターンシップは大学生の課外活動として定着したと言える。一方で、採用直結型のインターンシップの増加や就職活動の早期化など、大学生の就職活動を取り巻く環境が急激に変化している。これらの状況を鑑み、本プログラムも社会の変化に応じて、さらなる充実をめざすために、2015年度より発足した「インターンシップ事業企画検討委員会」にて、時代に即したプログラム等について検討を重ねている。

また、各大学との連携について、2014年度から本プログラムを受講した学生に対し、大学が正課科目として単位認定をする場合、大学と本財団の間でインターンシップ・プログラムの運営に関する委託契約を新たに締結する運用を開始した。

今後も、意欲ある学生が本プログラムに参加でき、これまで以上に高い満足度を維持するため、産官学地域における連携をより密にするとともに、本プログラムが学生だけでなく、受入先にとってもより意義のある取組となるよう、プログラムを推進する。

第2章 2021年度インターンシップ・プログラムの実施内容

1 プログラムの概要

(1) コースの設定

ア 長期プロジェクトコース

受入企業・団体が提示したテーマを実現するプロジェクト型として実施する。インターンシップ期間は、6月から11月までの約5か月間で、年1回の実施である。

イ ビジネスコース・パブリックコース

企業・行政機関・非営利組織において就業体験を行う実践型として実施する。インターンシップ期間は、8月から9月中旬までの間に10日以上で設定され、年1回の実施である。

(2) 受入企業・団体の登録

2021年度は、前年度インターンシップ・プログラムの登録企業・団体を中心に、新規企業の開拓にも注力し、400の企業・団体に対しインターンシップ・プログラムへの登録を依頼した。

受入企業・団体の登録を依頼する際には、教育プログラムとして実施するインターンシップの理解を得るため、実習日数の確保や実習内容の設定について説明を行った。

このような依頼に対し、ビジネスコース・パブリックコースに136、長期プロジェクトコースに14、合計150の企業・団体からの登録を得た。このうち、新規に登録のあった企業・団体数は、ビジネスコース・パブリックコースに6、長期プロジェクトコースに6の合計12であった。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、案内方法はパンフレット及び受入先ガイドブックの送付並びに電話連絡を中心とした。

(3) 学生の募集

学生募集にあたっては、主に募集ガイドブック、電子チラシ及び新たに開設したインターンシップ・ポータルサイトを中心に広報を実施した。本財団に加盟している大学のうち34大学41カ所のキャンパス、そして非加盟大学では要望により9大学に、募集ガイドブックを配布するとともに、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン講義が増加したことを踏まえ、電子チラシによるプログラム周知を依頼した。これらの資料はインターンシップ・ポータルサイトにも掲載し、学生が常に情報にアクセスできる環境を整えた。

各大学で開催されるインターンシップ説明会でのガイダンスは、コロナ禍であったが6大学で実施することができた。また、例年、キャンパスプラザ京都で実施する説明会は、今年度オンラインで実施した。説明会では教育プログラムとしてのインターンシップに参加する意義の説明、修了生による経験の共有、個別相談会での質疑応答等を行った。

ア インターンシップ・プログラム説明会・相談会

日 時 4月17日(土) 18:00～20:00 参加学生数 287名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2021年度インターンシップ・プログラムの概要説明

修了生(2名)による報告

受入先としてインターンシップ生に思うこと

三共精機株式会社 代表取締役会長 石川 武 氏

質疑・応答

イ 長期プロジェクトコース説明会・相談会

日 時 4月22日(木) 18:00～20:00 参加学生数 37名

会 場 オンライン (Zoom)

内 容 2021年度インターンシップ・プログラムの概要説明
受入先によるプロジェクト紹介
修了生(1名)による報告
受入先(12団体)・修了生(1名)による個別相談会

(4) 出願及び面接

本財団への加盟・非加盟を問わず、各大学の正規学生及び大学院生であれば、学部・学年を限定せず出願可能とした。

出願手続きについては、学生の利便性向上のため、これまでキャンパスプラザ京都にて行っていた対面での出願受付から Web 出願に変更し、面接についても、新型コロナウイルス感染症のまん延時にも対応する観点からオンラインにて実施した。面接は出願者全員に対して行い、実習を最後までやり遂げ、さらに向上心があるかを確認する観点で質問を行った。

ア Web 出願

4月16日(金)～5月7日(金) 出願者 362名

イ Web 面接 (Zoom)

5月14日(金) 16:00～20:00

5月15日(土) 10:00～18:00

(5) 選考及びマッチング

出願者に対する選考は、受入先が選考を行う場合と、本財団が選考を行う場合の2種類を設定した。選考方法は、受入先企業・団体の登録に基づき決定し、学生へ情報開示した。本財団が選考を行う場合には、受入先が提示する受入要件を満たしているか、また志望理由と実習内容が適合しているかを検討した上で、受講許可を与えた。

2021年度プログラムに登録した受入先企業・団体のうち、受入先による選考を選択したのは32、本財団による選考を選択したのは118であった。

なお、長期プロジェクトコースは、長期間のプログラムであり、出願者のプロジェクト内容の理解を確認するため、全て受入先による選考とした。

(6) 受講手続

受講料徴収手続きについては、2021年度も引き続き、原則コンビニエンスストアでの支払いとした。受講料は、長期プロジェクトコースで15,000円(加盟大学以外の学生は20,000円)、ビジネスコース・パブリックコースで10,000円(加盟大学以外の学生は15,000円)とし、保険料・施設利用料・その他講座運営にかかる諸費用に充てた。

2 長期プロジェクトコースの実施内容

(1) 実施プロジェクト

今年度の長期プロジェクトコースにエントリーした14団体が提供する14プロジェクトのうち、7プロジェクトが成立した。7プロジェクトの内容と受講者数は、資料5のとおりである。

(2) 講義概要

ア プロジェクトの導入

オリエンテーションとしてプログラムの概要や諸注意等の説明を行った後、各プロジェクトに分かれてミーティングを実施した。ミーティングでは、プロジェクトメンバーの相互理解を深めるとともに、受入先からの目標提示を受け、講義の最後に、各プロジェクトの概要を全体に発表した。

また、リスクマネジメント講習として、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

イ プロジェクトの形成

プロジェクト形成の概要を学んだ上で、プロジェクトの目標、成果及び活動を明確にし、活動計画を設定した。またプロジェクト形成と併せて、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの習得やコミュニケーション能力の向上を目的とした専門講師によるコミュニケーショントレーニング、映像コンテンツの活用法を学ぶプレゼンテーショントレーニングを実施した。

ウ プロジェクトの実施

主に受講生の夏期休暇を利用して、活動場所を受入先に移しプロジェクトを実施した。今年度、夏期休暇期間は、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言等の行政措置の対象期間であったが、オンラインシステムの活用等により、プロジェクトを進捗させた。

受講生は、サマーセッションとして夏期休暇活動中間報告を実施するとともに、今後の活動に係る個人ごとの目標について発表した。また、同セッションでは特別講演として「広報を学ぶ」「ITで変わる仕事」をテーマに、外部講師にご講演いただいた。

<<講演概要>>

日 時 2021年9月2日 18:00～19:30

テーマ 広報を学ぶ

講 師 コンセプトグラマー有限公司 代表取締役社長 曾和 裕次 氏

日 時 2021年9月2日 19:40～21:10

テーマ ITで変わる仕事

講 師 パナソニック株式会社 アプライアンス社 デザインセンター
イノベーション統括部 部長 長谷川 錦哉 氏

エ プロジェクトの振り返り

プロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況の報告とそれに対する意見に基づき、プロジェクト・プレゼンテーションまでの目標等を確認した。また、プロジェクトの評価方法を学び、受入先から提示のあった目標に対するアプローチの妥当性や有効性等について、プロジェクトごとに評価を行った。

オ プロジェクト報告・評価

講義最終日に、プロジェクト・プレゼンテーションを実施し、約5か月間の活動報告とその成果について発表した。また同日、今後のキャリア形成に向けて、プログラムの受講を通じた自己の変化を振り返る自己評価の時間を設けた。

受講生は、全てのプログラム終了後、プロジェクト報告書及び学習レポートを提出した。

3 ビジネスコース・パブリックコースの実施内容

(1) 実習受入について

今年度は、ビジネスコースで71団体に163名、パブリックコースで19団体に68名の学生に対して受講許可を決定した。出願者と受講者数については、資料1のとおりである。

(2) 講義概要

今年度の事前学習及び事後学習については、新型コロナウイルス感染症のまん延時にも対応できるよう全てオンラインにて開催した。講義内容については、以下のとおりである。

ア 事前学習

事前学習は、実習に向けた仮説と目標の設定と業界研究を通じたそれらの言語化を目的として、1クラス15名程度で編成されたゼミ形式で実施した。業界研究については、修了生17名、受入先企業・団体のご担当者14名の方のご協力を得て実施し、社会が求めるスキルや心構えなどについても学習する機会とした。

イ ビジネスキル研修

外部講師を招いて、コミュニケーショントレーニング及びスキルアップトレーニングを実施した。コミュニケーショントレーニングでは、就業意識の向上、オンライン及び対面時を想定したビジネスマナーの基本、コミュニケーション能力等について学習した。また、スキルアップトレーニングでは、ロジカルシンキングの獲得を目指し、実践的理論を学んだ。

ウ リスクマネジメント講習

リスクマネジメント講習は、事前学習の初日及び最終日の2度に分けて実施した。講義では、社会で起こりうるトラブルやリスクについて学ぶとともに、実習中のリスク管理、秘密保持等の重要性について理解を深めた。

エ 事後学習

実習で得た経験や課題等についてクラスで共有し、相互理解を深めた。また、他者の経験を踏まえた仮説の検証や成長点の確認により、プログラム終了後も継続する学生生活につながるものとした。

「実習経験交流会」では全クラスを3グループに分け、その中でクラスごとに発表の後、他クラスからのコメントを元にした振り返りを行った。他クラスの経験からも学び、幅広い知見をもって自己の学習を振り返る機会とした。

4 プログラムの運用にあたって

(1) 受入先企業・団体との連携

いずれのコースにおいても、マッチング後に説明会を実施し、年間スケジュールや受講生を受け入れる際の重要事項の伝達及び担当コーディネーターとの意見交換の時間を設けた。

なお、ビジネスコース・パブリックコースにおいては、受講生の実習期間中に、コーディネーターが受入先を訪問等（オンライン面談及び電話を含む。）し、実習状況の確認を行った。

ア 長期プロジェクトコース受入先との合同会議

日 時 6月17日(木) 17:30～18:00

会 場 オンライン (Zoom)

参加数 受入先ご担当者12名

内 容 2021年度のプログラム概要及び担当コーディネーターとの方針確認

イ ビジネスコース・パブリックコース受入先ご担当者説明会

日 時 6月10日(木) 17:00～18:30

会 場 オンライン (Zoom)

参加数 受入先ご担当者 50 名

内 容 2021 年度インターンシップ・プログラムの概要と講義内容について
受入先の想いについて

三共精機株式会社 代表取締役会長 石川 武 氏

インターンシップ受入手続き等について

受入先ご担当者とコーディネーターとの意見交換

(2) 大学・短期大学との連携

受講生の所属大学と連携し、プログラムの広報及びインターンシップの運営に係る情報共有を行った。プログラムの広報については、第2章1(3)のとおりであり、インターンシップの運営に係る情報共有については、コロナ禍におけるインターンシップの実施方法、受入先との連携及び受講生対応の方針の共有を重点的に行った。

また、本プログラムを大学が単位認定する場合、インターンシップ事業に関わる単位委託契約の締結を行った。プログラム終了後、この契約に基づいた科目担当者会議を開催し、コーディネーターが採点した成績を開示するとともに、受入先の実習状況評価、受講生のレポート、講義への出欠状況を確認する機会を設けた。

(3) インターンシップ事業企画検討委員会

大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、開始から一貫して正規の大学教育の一環として明確に位置づけ、産官学連携による教育プログラムとして実施されている。

本委員会は、財団のミッションである大学間連携事業を推進する中で、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育としてのインターンシップ事業を推進し、加盟大学の教育の質向上と実社会に則した教育効果のあるインターンシップ・プログラムに資する検討の場としている。

上記目的を達成するために、本委員会で議題とする内容は、各コースコーディネーター会議や担当事業部会議においても報告し、また必要に応じて議題とし、事業運営の方針となりうるよう綿密に連携を取り進めることとしている。

ア 教育プログラムとしての質的向上に向けた主な審議事項

(ア) 大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラムに係る活動を行う際の感染症対策ガイドライン

(イ) 2022 年度に向けた実施方針と課題 (受入先開拓・広報・プログラム運営)

イ 開催日程

第1回 2021年6月25日(金)

第2回 2021年10月15日(金)

第3回 2021年12月3日(金)

第4回 2022年2月25日(金) (予定)

ウ インターンシップ事業企画検討委員会構成委員

委員長	古川 秀夫	龍谷大学 国際学部 教授
副委員長	多田 実	同志社大学 政策学部 教授
委員	桜沢 隆哉	京都女子大学 法学部 教授
	吉田 咲子	京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部 教授
	三浦 潔	京都文教大学 総合社会学部 教授
	黒宮 一太	京都文教大学 総合社会学部 准教授
	辻野皓一郎	大谷大学 学生支援部キャリアセンター
	瀬合 香恵	京都産業大学 キャリア教育センター
	安本祐一郎	京都先端科学大学 インターンシップセンター
	代崎 拓也	京都文教大学 就職部就職進路課
	片岡 龍之	立命館大学 衣笠キャリアオフィス
	石川 武	三共精機株式会社 代表取締役会長

4 リスクマネジメント

(1) 三者協定書の締結

実習が円滑に進められるよう、全受入企業・団体と受講生の所属大学、本財団の三者間で「インターンシップ実習生派遣に関する協定書」を締結した。

(2) 感染症対策ガイドラインの策定

感染症対策ガイドラインでは、新型コロナウイルス感染症にかからない、うつさないよう、取組例を示した上で、適切な行動を心がけることを受講生及び受入先に周知した。

なお、本ガイドラインでは、活動の前提として実習先及び所属大学の新型コロナウイルス感染症対策に関するガイドラインや指示等を遵守することを明示している。

(3) 保険

本財団では、プログラム開始から終了までの期間（実習期間を含む）、全コースの受講生を対象として、普通傷害保険及び個人賠償保険に加入し、不慮の事故やけが等に対応している。

なお、2021 年度については、保険金請求事例は発生しなかった。

【傷害保険】 死亡・後遺障害 500 万円／入院保険金日額 4,500 円／通院保険金日額 3,000 円

【賠償責任保険】 てん補限度額 1 億円（自己負担額 0 円）

(4) ハラスメントに対する取組

ハラスメント相談窓口を設置し、受講生をサポートする体制を整えている。ハラスメント相談窓口については、オリエンテーション及びリンクマネジメント講習にて受講生に案内した。また、受入先に対しては、各コース受入先ご担当者説明会にて説明を行った。

第3章 受入企業・団体のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「かなり満足」「やや満足」を合わせた数字から算出すると95.2%であった。また、次年度の受入れ予定については、71.4%の受入先が「受入れる予定である」と回答されており（2019年度は65.7%、2018年度は65.8%）、ご負担が多いにもかかわらず、多数の受入先から支持を得たことが窺える。一方、プログラムに対するご意見については改善点として認識し、今後検討していくこととする。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース 2021年9月下旬(実習終了後)

長期プロジェクトコース 2021年11月中旬(プロジェクト終了後)

2. 回答数

	企業・団体数	回答数	回答率
ビジネスコース	71	64	90.1%
パブリックコース	19	14	73.7%
長期プロジェクトコース	7	7	100.0%
総計	97	85	87.6%

II. アンケートの集計結果

1. 受入れについて

●ご準備いただいた実習内容に対し、インターンシップ生のマッチングについてはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①満足している	58	90.6%	14	100.0%
②どちらでもない	5	7.8%	0	0.0%
③不満がある	1	1.6%	0	0.0%
総計	64	100.0%	14	100.0%

【①の理由】

お二人とも今大学で学んでいる内容と結びついて学ばれました。

何事にもまじめに取り組む二人でした。観察力が高い、聞く力、自分の頭で考えようとする力がある。

何事も前向きに取り組む、大変優秀な学生さんであったため。

学生が目的意識を持って実習にあたってくれた。

自分の知らない業務を体験したいという意欲があり、戸惑いながらも最後まで頑張ってやり遂げられた。

実習内容の種類の豊かさなどで充実感があったようだ。

就職活動の足掛かりとしてまずは企業全体の事を知りたいという要望があり、各部署それぞれをダイジェスト的に体験する実習で、おおまかな会社組織を理解してもらえたと感じる。

初めは慣れない作業や体験も、フィードバックを基に改善し、回を重ねるごとに良いものに仕上げられた。

答えが無い問いを考えるインターンでしたが、積極的に自分たちから学びにいく姿勢をすごく感じることができました。

【②③の理由】

コロナの影響でスケジュールが変更になったので。

コロナ時代の対応が不十分である。

十分な企業調査をされていない様子。なんとなく参加という感じはあった（事前面談の際）。

●実習内容は主にどのようなものを実施されましたか。（複数回答可）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①社員の基幹的な業務の一部を体験	26	40.6%	7	50.0%	1	14.3%
②社員の補助的な業務の一部を体験	14	21.9%	2	14.3%	1	14.3%
③社員の通常業務以外の業務	6	9.4%	1	7.1%	4	57.1%
④見学を中心に実施	4	6.2%	2	14.3%	0	0.0%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	8	12.5%	0	0.0%	0	0.0%
⑥その他	6	9.4%	2	14.3%	1	14.3%
総計	64	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

【⑥その他の記述欄】

仕事理解・先輩社員との関わりを通して、自らのキャリアビジョンを描けるよう社会に出た時のイメージを持ってもらうことを目的に実習カリキュラムを組みました

社会人としての心構え、金融機関の訪問

日常着手出来ないことを、若者の視点で担っていただいた。

インターンシップ用プログラムを実施し、成果物の作成、プレゼン

組合員、職員に向けた活動へ実際に参加、体験。

業務の一部を体験、課題研究およびプレゼン、職員との交流、他自治体のインターンシップ実習生との交流等パデルのレッスンを受け、会員と対戦する。キッズへの球出しなどスタッフとしての体験。

「当社製品のPR」をテーマに自分たちの興味・関心のあるやり方で目的達成を図ってもらう

●支給された各種手当の総額をお答えください。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
0円	53	82.8%	14	100.0%	5	71.4%
1円～4,999円	2	3.1%	0	0.0%	0	0.0%
5,000円～9,999円	3	4.7%	0	0.0%	1	14.3%
10,000円～19,999円	2	3.1%	0	0.0%	1	14.3%
20,000円以上	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
その他・無回答	3	4.7%	0	0.0%	0	0.0%
総計	64	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

●次年度のインターンシップ受入れについてお伺いします。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①受入れる予定である	48	75.0%	8	57.1%	4	57.1%
②受入れない	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
③未定	15	23.4%	6	42.9%	3	42.9%
総計	64	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

2. 受講生について

●参加した学生の実習態度はいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①真剣に取り組んだ	61	95.3%	14	100.0%	6	85.7%
②ふつう	3	4.7%	0	0.0%	1	14.3%
③真剣さを感じられなかった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	64	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

●学生自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	60	93.7%	14	100.0%	5	71.4%
②どちらともいえない	3	4.7%	0	0.0%	2	28.6%
③成長があったと思えない	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
総計	64	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

●前問で「①成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	26	11.9%	6	12.0%	0	0.0%
②自主性・独創性の育成	37	16.9%	6	12.0%	2	11.1%
③キャリア形成	18	8.2%	4	8.0%	1	5.6%
④問題解決能力の向上	22	10.0%	5	10.0%	3	16.7%
⑤多様な価値観の認識	36	16.4%	8	16.0%	5	27.8%
⑥コミュニケーション能力の向上	36	16.4%	10	20.0%	2	11.1%
⑦プレゼンテーション能力の向上	20	9.1%	5	10.0%	3	16.7%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	20	9.1%	5	10.0%	2	11.1%
⑨その他	4	1.8%	1	2.0%	0	0.0%

【⑨その他の記述欄】

課題作成を通して、二人の会話が増えており、協力しながらしっかりと発表することができていました。

リーダーシップ

障がいに対する理解や対応方法の習得ができた

パデルというスポーツはゼロからのスタートだったが、キッズから一般会員までと十分に試合ができるレベルに達した。但し、受動的が能動的へ変化はまだまですた。

3. インターンシップ・プログラムについて

●大学コンソーシアム京都が行うインターンシップに参加された一番の理由は何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①コンソーシアム京都の加盟大学との強化	12	18.8%	2	14.3%
②指導することにより社員の育成になるから	5	7.8%	0	0.0%
③学生への自社PRのため	6	9.4%	2	14.3%
④採用活動につなげたいから	7	10.9%	2	14.3%
⑤学生から自社に対するアイデアを得るため	7	10.9%	1	7.1%
⑥社会貢献	18	28.1%	6	42.9%
⑦その他	9	14.1%	1	7.1%
総計	64	100.0%	14	100.0%

【⑦その他の記述欄】

福祉の魅力発信の方法やアイデアをもらいたかったの。

学生が社会に出る前に、地域とのつながりや、地域活性化に自身が何ができるかを考えてもらうため。

学生への業界のPR

⑥社会貢献にも近いですが、10日間という期間ではありますが、実習先の考え方や価値観に触れることで、学生はどういった視点で物事をとらえ、また気づきを持つのか知っていた。

貴団体からのご依頼もあり、参加させていただきました

パデルの普及活動のひとつとして若い世代に知ってもらい体験してもらうため

●学生を受入れて、一番のメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大学との連携強化	3	4.7%	2	14.3%
②職場活性化	17	26.6%	4	28.6%
③指導する社員の成長	12	18.7%	0	0.0%
④自社のPR・広報・宣伝	4	6.3%	2	14.3%
⑤優秀な学生との出会い	8	12.5%	2	14.3%
⑥新たな企画開発	1	1.6%	0	0.0%
⑦社会貢献	12	18.7%	3	21.4%
⑧その他	7	10.9%	1	7.1%
総計	64	100.0%	14	100.0%

【⑧その他の記述欄】

学生の日線も加え、特集番組が制作できた。

受入側の立場に立てること

業務についての学生からのフィードバック

若い世代との交流で、若い世代の意識を知ることができるとともに、新鮮な刺激を受けます。

パデル京都の会員にとって、実習生の学ぼうという姿勢を評価し、良い刺激になった。キッズがとても喜んで
いた。

●学生を受入れて、一番のデメリットは何ですか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①指導に時間・コストがかかる	31	48.4%	6	42.9%
②事前の準備に時間・コストがかかる	14	21.9%	3	21.4%
③安全への配慮に手間がかかる	6	9.4%	1	7.1%
④情報漏えいが不安である	3	4.7%	0	0.0%
⑤その他	10	15.6%	4	28.6%
総計	64	100.0%	14	100.0%

【⑤その他の記述欄】

突然の警報に電車が運休になり、自宅まで送った。警報時の連絡や課題の出し方など。

10日間という長期間のため、事前準備だけでなく、実習中にも準備・コストがともにかかっている印象です。
また団体・指導責任者が記入しなければならない書類やアンケートが多く、負担が増えているように思えま
す。負担がかなり大きい割には、団体が得られるメリットというのは少なく費用対効果において疑問点が残る
次第です。

提出物が多いのが少し負担に感じました。

実習生のニーズに合わせた実習内容の検討が難しい

学生の資質により、指導に関する時間やコスト等が発生する可能性がある

●過去に受け入れた学生が、貴社・貴団体の採用試験に参加されたことはありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	15	23.4%	4	28.6%
②ない	31	48.4%	5	35.7%
③新卒採用を行っていない	9	14.1%	2	14.3%
④わからない	9	14.1%	3	21.4%
総計	64	100.0%	14	100.0%

●前問で「①ある」と答えた方にお伺いします。

過去に受け入れた学生を、貴社・貴団体において採用されたことがありますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①ある	7	46.7%	3	75.0%
②選考過程で採用には至らなかった	8	53.3%	1	25.0%
総計	15	100.0%	4	100.0%

●大学コンソーシアム京都以外から大学生のインターンシップを受け入れていますか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①はい	44	68.7%	14	100.0%
②いいえ	20	31.3%	0	0.0%
総計	64	100.0%	14	100.0%

●2021年度のインターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に満足	34	53.1%	7	50.0%	0	0.0%
②かなり満足	22	34.4%	7	50.0%	3	42.9%
③やや満足	5	7.8%	0	0.0%	3	42.9%
④やや不満	3	4.7%	0	0.0%	1	14.2%
⑤かなり不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
⑥非常に不満	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	64	100.0%	14	100.0%	7	100.0%

Ⅲ. ご意見・ご要望について（自由記述欄より抜粋）

本項目については、実習実施後調査書自由記述より抜粋したものを原文のまま掲載する。
ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

《ビジネスコース/パブリックコース満足度の理由について》

不動産・建築設計	終了時に行ったプレゼンテーションについて各人とも良かった。
不動産・建築設計	今後、新入社員教育の一環にも取り入れられるカリキュラムの基盤となったため
不動産・建築設計	緊急事態宣言のため、直前にオンラインを導入したため、準備が不十分だった
金融・証券・保険	初めてのオンライン併用開催でうまく運営できるか不安でしたが、オンラインでも十分対応が可能であることが把握できた点。
コンサルティング・調査・研究	メール、オンラインの対応が多く困る。（当方はゆっくりメールが見れないので）
士業（法律・会計事務所）	オンラインでの経験交流集会がなかなか面白かったです
エンタテインメント	リモート実施の可能性が広がった
マスコミ・広告・印刷・出版	大変優秀で意欲のある学生を送り込んでいただき、受け入れた従業員の刺激になるなど職場が活性化した。
マスコミ・広告・印刷・出版	不慣れな部分もあり当初予定の実習内容を変更せざるを得ない場面もあったが、弊社各部門担当社員にとっては勉強になったかと思えます。また学生の方にとっては社会に出ることに対しての気付きやご自身の変化もあったとおおむね満足頂けたようで安心しました。
レジャー・アミューズメント	複数名の学生がいれば尚良いと感じた
安全・メンテナンス・清掃	コロナの影響で開催が変更になり、プログラムが充実できなかった。
医療・福祉	初めての受け入れでしたが、可能な範囲でできたと思います。学生さんからいただいた意見も今後に生かすことのできる内容でした。
観光・旅行	社員へのいい刺激になったので
ホテル・旅館	コロナで世の中不安定ななか、多くの学生が参加してくれたので
ホテル・旅館	実習最終日の記念撮影では10日間の緊張が解け、良い笑顔での撮影だったのが印象深かった。担当した客室係より、指導するという事の難しさも含め、それぞれが「良い経験ができた」という前向きなコメントがあった。
教育（学校・大学等）	「インターンシップ・プログラム」としては、オンラインのみでなく対面を取り入れた方が良かったと考えるため。
教育（学校・大学等）	多様な学生を受入れることで、受入担当者の今後のマネジメント（キャリアステップ）を考える機会となる為
教育（学校・大学等）	学生のインターンシップに関するニーズが把握できた点は満足しているが、特にオンラインだと10日は負担が大きい。
教育（学校・大学等）	コロナ禍であることから、昨年度に引き続き、計画中止の選択肢もあったのでは。
商社・卸売	新しいスタイルでのインターンシップを無事完了することができました。
商社・卸売	教える立場の難しさや、社内が活性化されました。
小売・販売・専門店	学生の受講態度も非常に真面目で、外から見た自社について職員が学ぶ機会になった。
小売・販売・専門店	事前にしっかりと学習や研修もされており、参加姿勢も前向きで、こちらも多くの学びがありました。
小売・販売・専門店	コロナの影響で業務に制限があり、満足されているかどうかよくわからないモヤモヤした感じで終わってしまいました。
情報・通信・IT	学生の前向きな姿勢で、社員も受け入れて良かったと感じてくれたこと。課題の発表は実際に参考にできるもので、社員の視野も広がったと思います。
情報・通信・IT	学生に与えた課題が難しかった部分があった

製造（食品）	良い人材であり、一番に礼儀が良かった
製造（その他）	双方ともに成長できたと感じる為
その他	職業体験して頂くことによる負担は感じていない。満足されるかどうかは、学生さんがどう思っていたに依存する。
非営利組織	通常状況ではありませんでしたが、その中でも受け入れが出来たことは互いにとって成長の機会になったと思われるので。
非営利組織	学生たちがとても前向きに真剣に取材活動に取り組んでくれ、いろいろな情報や人の生き方・働き方、子育ての仕方、夫婦のあり方について学んでいた。
非営利組織	やはり対面にて現場を見ていただきたい思いが残りました。
官公庁	仕事に対する取組の姿勢や人柄も良く、また、日を追うごとに積極性も見られたため
官公庁	大変、前向きで積極性のある学生ばかりで、グループディスカッションの様子を見ていて、気持ち良かった。普段体験できない内容ばかりで満足したと感想をいただいた。
官公庁	インターンシップ生が複数部署を体験、市役所を見学する過程で、職員とコミュニケーションを取ることで、職場活性化にもつながった。
官公庁	学生に対して、障がい理解の促進ができたこと、市としての取組の一部を知ってもらえたことはよかったと考えるため。

《ビジネスコース/パブリックコースプログラムの改善点について》

不動産・建築設計	大学コンソーシアム・コーディネーター・企業の連携が薄く何をどうして良いのか正直わかりづらかった
士業（法律・会計事務所）	事後のオンライン経験交流集会だけでなく、学生がプログラムを選ぶ段階で同様のもの（受入先の紹介など）があってもいいかもしれません
マスコミ・広告・印刷・出版	学生の事前業界研究の内容がかなり大企業寄りのレポートのようでしたので、もう少し中小企業の実情にも沿った学習をしてもらっても良いのかなと感じました。
教育（学校・大学等）	Chatworkのようなシステムを大学コンソーシアム京都で一貫して取り入れて、実習生とやり取りしやすいシステムを構築いただきたい。事後学習の「実習経験交流」のスケジュールを大まかでも事前にご連絡いただきたい。
教育（学校・大学等）	実務実習での、オンライン実施は、困難である。
商社・卸売	社内のWi-Fi設備が不安定なことがありました。オンラインで社員との交流が少なくなったので、もう少し増やせたらと思います。
情報・通信・IT	期間を1週間・2週間と選べるようなものであれば有難いと思います。
製造（食品）	生徒が毎日記入する実習ノートの改善（以前までのほうが良かった）生徒自身がその日体験した事を、感想を書く欄が少なすぎる
製造（その他）	緊急事態宣言時の対応の明確化
非営利組織	実習日誌の様式が変更されていましたが、実習生はあまり使いこなせていないように感じました。受け入れ側としては以前の様式のほうが扱いやすかったです。
官公庁	感染症の対策方針（実習を中止しなければならない場合など）をあらかじめ明示していただければよかった。

《長期プロジェクトコース ご意見・ご要望について》

本来は事業として親和性のあった他の実習先のチームと、お互いの工場見学や交流をしたいと考えていたが、そういう展開が作り出せなかった。
意欲ある若者の人材育成に貢献できたと感じる。
毎回新しい出会いを与えてくださって、感謝しています。事務局の方も実地にて定例会をしていただくなどの個別フォローがあると嬉しいです。講義以外でも話せる機会を設けて、受け入れ先には直接相談しにくいことや学生自身の悩みを、共有できたり、解決できれば、もっと深くかわわっていけるとと思います。
講義の時間が長く、なかなか参加できませんでした。当日のレジュメや報告などを共有いただけると、受入れプログラムの進行を考える際の参考になります。
プログラム全体像の共有。全体講義の内容の共有。
インターンシップの趣旨は素晴らしいと思いますが、弊社のような小さな組織では少々キャパオーバーなところがありました。はじめて参加の受入先には、前例やスケジュール感等踏み込んだ説明が必要かと思います。受入先同士の間（オンラインでも）があり、お互い相談等出来て、着地点をある程度揃えられたら嬉しいです。
いくつか嬉しい成果がありましたが、ボリュームが大きすぎた面もあります。
成果報告会で学生が謝罪を述べたり、涙するような企画であってはならないと思います。受入先についても経営陣のコミットの有無によって、学生での心理的安全性に影響が出ており、少なくともコロナ2年目で「コロナの影響で～」とか「オンラインが～」等は事業者として言い訳にはならない。大学の授業の一環として参加している以上、自分たちが教育的立場であるという自覚をもって受入れるべきだと思います。それによって受入先が減る可能性もあると思いますが、学生が主役であり、その質の向上を優先すべきだと考えます。
もう少し事務局との意思疎通が密にあった方がよい。弊社の準備が不足していたのも原因。

第4章 受講生のアンケート結果から

今年度のインターンシップ・プログラムに対する満足度は、「非常に満足」「やや満足」を合わせると全体の88.8%であった。また、成長感については、91.2%が「成長があったと感じる」と回答した。

概して、受入先企業・団体における就業体験においては満足度も高く成長に繋がるとともに、多くの受講生にとって、就職することに対する意識の醸成や卒業までの目標を定める機会となったことが確認できる。

なお、アンケートの質問項目は、コースの内容に応じた項目を設計したため、コースにより異なる項目がある。

I. アンケートの実施要項

1. アンケート実施日

ビジネスコース・パブリックコース	2021年9月18日～9月20日
長期プロジェクトコース	2021年11月6日～11月8日

2. 回答数

	回答数
ビジネスコース	124
パブリックコース	55
長期プロジェクトコース	18
総計	197

II. アンケートの集計結果

1. 実習について

●あなたが実習をおこなった受入先へのマッチングはいかがでしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①大変満足	69	55.7%	31	56.4%
②満足	47	37.9%	20	36.4%
③どちらでもない	5	4.0%	3	5.4%
④不満	3	2.4%	1	1.8%
⑤とても不満	0	0.0%	0	0.0%
総計	124	100.0%	55	100.0%

●あなたが体験した実習内容は、主にどのようなものでしたか。（複数回答可）

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
①基幹的業務の一部を体験	45	36.3%	17	30.9%
②補助的業務の一部を体験	41	33.1%	24	43.6%
③通常業務以外の業務	6	4.8%	8	14.6%
④見学を中心に実施	14	11.3%	3	5.5%
⑤新任者研修に準ずる座学を中心に実施	10	8.1%	2	3.6%
⑥その他	8	6.4%	1	1.8%
総計	124	100.0%	55	100.0%

【その他の記述内容】

全部署の見学・体験

業務内容についての座学

オンライン形式での学習と実習にて行っていました。

オンラインで、担当者の方から企業についての事業などの説明を受けたり、イベントに参加しました。

与えられたテーマに対して、レポートを作成し最終日にプレゼンする。

レポート作成

働き方について考える機会を企業様の方でプログラムを組んでくださり実施した。

営業の同行や、セミナーの参加、事務作業など多岐にわたる

職員の方々による講義やフィールドワーク、グループディスカッションが中心で、業務補助等はほとんどありませんでした。

●実習の実働日数は何日間でしたか。

	ビジネス		パブリック	
	回答数	%	回答数	%
7日未満 ※	5	4.0%	0	0.0%
7～9日	20	16.1%	30	54.5%
10日	87	70.2%	16	29.1%
11～15日	10	8.1%	8	14.6%
16～29日	2	1.6%	1	1.8%
30日以上	0	0.0%	0	0.0%
総計	124	100.0%	55	100.0%

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による。

●実習の実働日数についてはいかがでしたか。

	①長すぎる	②やや長い	③適当	④やや短い	⑤短すぎる	総計
7日未満 ※	0	0	0	4	1	5
7～9日	0	7	20	19	4	50
10日	1	17	73	12	0	103
11～15日	2	7	9	0	0	18
16日以上	0	3	0	0	0	3
総計	3	34	102	35	5	179

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による。

2. 受講生自身の変化について

●あなた自身に成長があったと思われますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①成長があったと感じる	119	96.0%	48	87.3%	14	77.8%
②どちらともいえない	4	3.2%	6	10.9%	3	16.7%
③成長があったと思えない	1	0.8%	1	1.8%	1	5.5%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

●前問で「成長があったと感じる」と答えた方は、どのような成長がありましたか。（複数回答）

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①学習意欲の喚起	46	37.1%	25	45.5%	8	44.4%
②自主性・独創性の育成	53	42.7%	22	40.0%	8	44.4%
③キャリア形成	43	34.7%	19	34.5%	5	27.8%
④問題解決能力の向上	31	25.0%	14	25.5%	9	50.0%
⑤多様な価値観の認識	60	48.4%	25	45.5%	8	44.4%
⑥コミュニケーション能力の向上	76	61.3%	24	43.6%	6	33.3%
⑦プレゼンテーション能力の向上	34	27.4%	8	14.5%	7	38.9%
⑧社会が求める能力やスキルの向上	46	37.1%	8	14.5%	4	22.2%
⑨その他	0	0.0%	0	0.0%	2	11.1%

●受入先への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	30	24.2%	16	29.1%	2	11.1%
②やや就職したい	63	50.8%	28	50.9%	13	72.2%
③あまり就職したくない	23	18.5%	8	14.5%	2	11.1%
④就職したくない	8	6.5%	3	5.5%	1	5.6%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

●受入先と同業種への就職希望についてはいかがですか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①就職したい	36	29.0%	21	38.2%	2	11.1%
②やや就職したい	55	44.4%	24	43.6%	11	61.1%
③あまり就職したくない	29	23.4%	7	12.7%	4	22.2%
④就職したくない	4	3.2%	3	5.5%	1	5.6%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

●就職することに対する意識の変化について

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①強く思うようになった	51	41.1%	23	41.8%	3	16.7%
②少し思うようになった	43	34.7%	24	43.6%	7	38.9%
③それほど変化はなかった	28	22.6%	8	14.6%	8	44.4%
④少ししたくないと思うようになった	2	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
⑤強くしたくないと思うようになった	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

●実習前と比較して、実習した受入先の業種・職種のイメージはどうなりましたか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①良くなった	96	77.4%	42	76.4%	13	72.2%
②変わらない	25	20.2%	13	23.6%	5	27.8%
③悪くなった	3	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

●インターンシップ実習で何を得られましたか。

1) 働くということを実感できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	5.5%
②あまり思わない	2	1.6%	2	3.6%	3	16.7%
③どちらでもない	11	8.9%	11	20.0%	2	11.1%
④思う	51	41.1%	17	30.9%	7	38.9%
⑤とてもそう思う	60	48.4%	25	45.5%	5	27.8%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

2) 受入先について知ることができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
②あまり思わない	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
③どちらでもない	2	1.6%	1	1.8%	1	5.5%
④思う	34	27.4%	13	23.6%	10	55.6%
⑤とてもそう思う	87	70.2%	41	74.6%	7	38.9%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

3) 自分のスキルが向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	1	1.8%	0	0.0%
②あまり思わない	3	2.4%	3	5.5%	3	16.7%
③どちらでもない	14	11.3%	7	12.7%	3	16.7%
④思う	75	60.5%	28	50.9%	10	55.5%
⑤とてもそう思う	32	25.8%	16	29.1%	2	11.1%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

4) 自分の専門知識が向上した

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	2	1.6%	2	3.6%	2	11.1%
②あまり思わない	10	8.1%	4	7.3%	1	5.6%
③どちらでもない	31	25.0%	12	21.8%	6	33.3%
④思う	60	48.4%	22	40.0%	9	50.0%
⑤とてもそう思う	21	16.9%	15	27.3%	0	0.0%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

5) 自分の力試しが出来た

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%
②あまり思わない	8	6.4%	5	9.1%	1	5.5%
③どちらでもない	17	13.7%	9	16.4%	5	27.8%
④思う	56	45.2%	24	43.6%	7	38.9%
⑤とてもそう思う	43	34.7%	15	27.3%	5	27.8%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

6) 卒業までの目標設定ができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	1	0.8%	1	1.8%	2	11.1%
②あまり思わない	9	7.3%	4	7.3%	2	11.1%
③どちらでもない	27	21.8%	8	14.5%	3	16.7%
④思う	55	44.3%	26	47.3%	9	50.0%
⑤とてもそう思う	32	25.8%	16	29.1%	2	11.1%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

7) 受入先に貢献できた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	4	3.2%	1	1.8%	1	5.6%
②あまり思わない	19	15.3%	6	10.9%	4	22.2%
③どちらでもない	26	21.0%	13	23.7%	6	33.3%
④思う	59	47.6%	28	50.9%	6	33.3%
⑤とてもそう思う	16	12.9%	7	12.7%	1	5.6%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

8) 他大学の学生・教員とのネットワークができた

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①全く思わない	6	4.8%	11	20.0%	0	0.0%
②あまり思わない	11	8.9%	4	7.3%	4	22.2%
③どちらでもない	16	12.9%	13	23.6%	4	22.2%
④思う	50	40.3%	16	29.1%	6	33.4%
⑤とてもそう思う	41	33.1%	11	20.0%	4	22.2%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

●実習を終えた今の自分が社会に出る際に不安だと思うことは何ですか。

1) ビジネスマナーや話し方

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	13	10.5%	6	10.9%	4	22.2%
②やや不安だ	48	38.7%	17	30.9%	5	27.8%
③どちらでもない	19	15.3%	14	25.5%	2	11.1%
④あまり不安ではない	34	27.4%	15	27.3%	6	33.3%
⑤不安でない	10	8.1%	3	5.4%	1	5.6%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

2) 職場の人との人間関係

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	15	12.1%	4	7.2%	4	22.2%
②やや不安だ	31	25.0%	13	23.6%	7	38.9%
③どちらでもない	15	12.1%	10	18.2%	4	22.2%
④あまり不安ではない	46	37.1%	22	40.1%	3	16.7%
⑤不安でない	17	13.7%	6	10.9%	0	0.0%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

3) スキルや専門知識

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	21	16.9%	7	12.7%	4	22.2%
②やや不安だ	60	48.4%	24	43.7%	10	55.6%
③どちらでもない	16	12.9%	11	20.0%	0	0.0%
④あまり不安ではない	24	19.4%	13	23.6%	2	11.1%
⑤不安でない	3	2.4%	0	0.0%	2	11.1%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

4) 体調管理

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①不安だ	9	7.3%	5	9.1%	2	11.2%
②やや不安だ	19	15.3%	10	18.2%	4	22.2%
③どちらでもない	13	10.5%	5	9.1%	4	22.2%
④あまり不安ではない	38	30.6%	19	34.5%	4	22.2%
⑤不安でない	45	36.3%	16	29.1%	4	22.2%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

3. インターンシップ・プログラムについて

●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足していますか。

	ビジネス		パブリック		長期プロジェクト	
	回答数	%	回答数	%	回答数	%
①非常に不満	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
②やや不満	3	2.4%	3	5.5%	0	0.0%
③どちらでもない	6	4.9%	6	10.9%	3	16.7%
④やや満足	48	38.7%	23	41.8%	10	55.5%
⑤非常に満足	66	53.2%	23	41.8%	5	27.8%
総計	124	100.0%	55	100.0%	18	100.0%

Ⅲ. ビジネスコース・パブリックコース「実習経験交流会」について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

●発表を聞いての感想

- ・建築関係の企業での実習をされたインターン生がうらやましく思え、就職先に関して自分でこういうところに就職したいと明確にできた。また、一緒に働く仲間が向上心を持っていることなどはとても重要だと感じた。
- ・他の学生との実習、ゼミの雰囲気の違いが鮮明にでていて面白いと思った。
- ・様々な実習先での経験や成長を共有できた事は非常に参考になって良かったと考えている。他の人の行いについて自分も真似しようと思えることがあった。
- ・他の企業や業種の発表を聞いても、共通することも多くあり、コミュニケーション力やお客様、人を思う気持ちというのが大切だということが分かった。
- ・私は官公庁で実習したが、民間企業で働くことにも興味があったため、ビジネスコースのお話を聞くことができ、為になった。また、多くの人が共通してコミュニケーションを活発にとることの重要性について発表しており、働く上でのコミュニケーション力が必須であることに改めて気づくことができた。
- ・自分の今後身につけておきたいスキルや知識が新しく見えた。
- ・パワーポイントを用いて各グループがそれぞれ違った発表をしていたので、非常に興味深かったです。また、自分が一生知ることの無いだろうと思っていた業界についても、お話を聞くことが出来てとても貴重な時間でした。
- ・様々な職種体験の話を聞いて、学生目線でのギャップを知ることができた。
- ・みんな今回のインターンシップで、認識の違いや成長できたことがあり満足していると感じた。しかし、オンラインによる画面共有での発表だったため、発表の際にこちなさがでていた部分はあった。
- ・自分たちの班以外にも、いろいろな体験をされてきた方々の実習内容を聞いて、自身の今後の考え方や活動に生かしていきたいと思いました。
- ・みんなそれぞれでトライアンドエラーを繰り返していて得られた力が大きいのだとすごく感じました。
- ・実習先、実習内容が異なる人とのグループでの発表でも、学んだことや課題の共通点を挙げ、グループの発表としてまとめた構成にしていたクラスがあって参考になりました。
- ・自身の実習先以外の業界の話を知ることができ、非常に勉強になった。この発表や質疑応答の機会を経て、自分に向いているのか、関心が持てるのかを計ることができ、非常に有意義であったと感じる。
- ・発表の仕方や振り返りのための視点が、各実習先、各ゼミクラスで全く違うことを感じた。実習での成果を聞くだけでなく、具体的に学んだことについて知ること、共感する点が多かった。振り返りをする上での新たな視点を学ぶこともできた。オンラインでの発表であったため、パワーポイントの分かりやすさや話すスピードなど、他の発表を聞くことで自分の発表に活かそうと思うことができた。
- ・個人的にそれぞれの業務内容をもう少し詳しく知りたかった。成長したことや課題などは実習経験の交流という場ではあまり必要ないと感じた。
- ・民間企業のインターンシップでの学びについて、交流会を通して知ることができました。民間企業と行政の比較を、実際に実習に行った生徒同士で行える機会というものは、普段の生活の中ではないので、本当に貴重な経験をさせていただけたと思います。

●発表時間及び準備について

- ・まだ伝えたいことがあったので、5分という発表時間はと少ないと感じた。いかにして短い時間の中でまとめられるかという部分では学ぶことが多かった。
- ・zoomでの準備であったので、直接交流しながらスライドを作ることができなかったのが残念であったが、実習前と実習後で変わったことを書くという共通したテーマを先生が設定してくださったので、ゼミでまとまった発表になったので良かったと思う。
- ・準備時間が短かったため、実習先ごとの持ち時間を決める、パワーポイントを作成するなど、事後学習の授業前に事前に取り掛かっておけばよかったと思った。
- ・準備時間というよりも、発表でどういうことを話すのかなどはもう少し指示が欲しいと思った。発表時間は適切だと思う。
- ・長すぎたように思う。ずっとパソコンの画面に向き合うことは、頭が痛くなりしんどかった。
- ・オンラインでしたので、なかなか難しかったです。顔も直接見たことの無い人と突然話すのは難しいと感じました。
- ・発表を重視するより、時間重視で話をしてという形でした。この報告会の目的を知りたいと思いました。また、どのような発表にすることが条件か、ギリギリまで分からなかったため困惑しました。
- ・今まで短時間で発表準備を行ったことがなかったのでとても良い経験になった。無事にクラスで1つの発表をつくり上げることができて良かった。
- ・発表形態をもう少し早く知りたかったです。準備に関しては、今回の実習でオンラインでプレゼンを作った経験が生かされたように思います。
- ・発表時間が短く感じましたが、自分の体験を端的にまとめる訓練になったと感じました。
- ・補講である程度準備ができたので発表も余裕を持って取り組めたと思う。

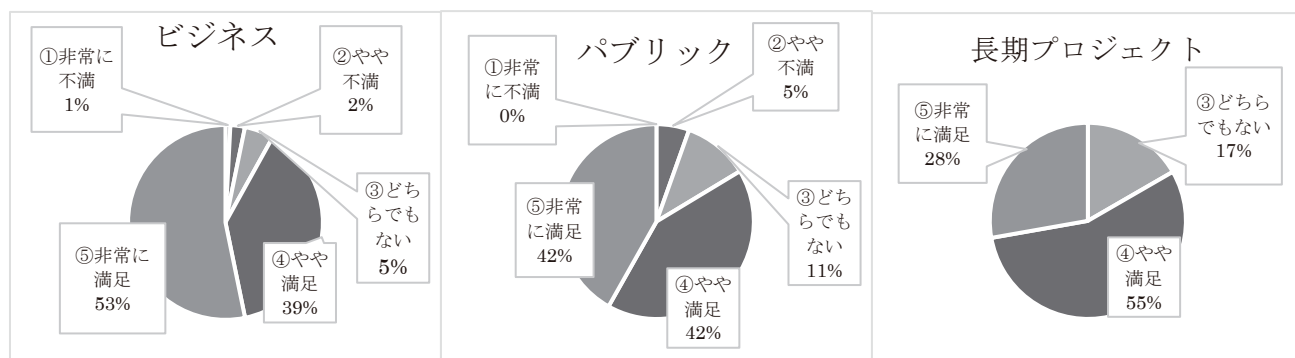
●その他

- ・発表内容に関して、ある程度項目を決めておくスムーズに発表が進むのではないかと感じた。
- ・インターンシップでなにをしたのかではなく、何を学んだのか、という点に更に焦点をあてて発表を行うと、益々有益なものとなると感じた。
- ・オンライン形式でフリートークのような、インターンシップ・プログラムに参加なさった皆様とお話する機会があればいいなと少し思いました。
- ・グループ活動に関して、このプログラムの所々で他の人と意識のレベルや熱量に少しギャップと歯がゆさを感じることがありました。全員が全員同じだけの意識の高さで実習に挑んだり向上心を持って取り組んだりすることは難しいかもしれませんが、グループで一つの発表をしたり意見をもらう時などに物足りなさや不安を感じるため、熱意や意欲の面でもっと向上心や高い意識をもっている人たちがお互いに切磋琢磨しながら満足して取り組める環境が保証されるといいなと思いました。
- ・交流会ではなく、発表会だったので、ゼミ外の学生とディスカッションできず、物足りなかった。
- ・I would love to be a part of other internship opportunities as well, but this time in a company.
- ・可能な限り受け入れ先の方からの感想をzoomにいらっしゃる方だけでも聞いてみたかった。
- ・発表前にどのような業種の実習先であったのか把握してから聞くと、よりわかりやすいと思った。

Ⅳ. 意見・感想について

※本項目については、学生アンケート自由記述欄より抜粋したものを原文のまま掲載する。ただし、誤字・脱字および個人名・企業名が特定される箇所の記述については、当該部分を削除・加筆した。

●全体を通して



《ビジネスコース／パブリックコース》

- ・しっかりとした事前学習があったからこそ、実習先でいい質問をすることができました。また、事後学習もありすべてのことを言語化して発表したことにより、得られた力を整理することができいいインターンシップでした。
- ・自分の知らない一面に気づくことができた。
- ・学校では決して学べない内容を経験させて頂きました。今後の就職活動や日々の生活にも活かすことが出来ると思ったので、とても満足しています。
- ・同じクラスの実習生を中心に、さまざまな実習生と関わったことも大きかった。自分にはない意見もたくさん聞けたので良かった。
- ・このインターンシップ・プログラムを通して自分自身の成長につなげることができたので、参加してとても良かったです。
- ・個人的な事情もあり、大学の授業と並行してインターンシップ・プログラムを受講することはとても大変なものでしたが、普段の生活では関わることのなかった人たちとコミュニケーションを交わすことで、自身の成長に繋がったと感じたので「非常に満足」とさせていただきました。
- ・自身の第一志望ではなかったが、さまざまな実習先の候補が用意されていて選択の余地がかなり多かったことが良いところだと思う。事前学習や事後学習もあり、インターンシップにおいて自分がどう成長したのかを考えられた。
- ・実習先が自分の学びたい要素があふれている企業だったので、日々新しく学べることばかりで非常に刺激的な10日間を過ごすことができた。
- ・希望の実習先が新型コロナウイルスの影響で受け入れを取りやめ、類似の受け入れ先も見つからなかったことで、実習開始前はインターンシップに対するモチベーションが低下していました。しかし、実習先の方が業務を丁寧に教えてくださり、自分で考えて取り組むようにアドバイスをくださるなど多くの学びの機会を与えてくださったため、非常に良い経験になったと感じています。
- ・オンラインということもあり、また、私の場合は実習先での実習生が私のみだったので、他の学生とほとんど交流することなく終わってしまったのは少し残念でした。

- ・実習が半減したのに事後学習のボリュームは変わらなかったことが少し不満。
- ・ビジネスメールの作成、アポ取りなど経験したとこないことをする機会があり、成長が感じられた。
- ・実際に働く職員の人たちの姿を見て、在学期間中に自分がつけておくべき力が鮮明になった。
- ・単に企業・官公庁での実習だけでなくマナー実習・リスクマネジメントなどの予習や意見交流会など振り返りなどもしっかり行っていただき、大変貴重な体験となった。
- ・クラスでのグループワークでは他大学の受講生とディスカッションできて貴重な機会となりました。
- ・エントリーシートを書いたり、事前学習をしたり、社会人として会社で働いたり、実習先での体験など、初めてやることばかりで不安や緊張がたくさんあったが、振り返ってみるととても貴重な経験をさせてもらったと感じる。このインターンを通して、自分の良いところ・悪いところなどの発見ができたので、それをどう改善して今後活かしていくかというところをこれから考えていきたい。
- ・今回のインターンシップは非常に満足のいくものでした。実際の企業の業務内容や働き方のスタイルを目の前で見ることができたのもそうですが、何より自分の将来に対する視野が広がりました。教員志望ですが、より様々な業種を幅広く見てみたいと思うことができました。
- ・私の中で本プログラムに参加することはかなりの挑戦でしたが、本当に勇気を出して参加を決めて良かったと感じています。他大学の学生やコーディネーターの先生と交流できたことをはじめ、実習先で貴重な経験や学びを得ることができたこと、仕事に関することだけでなくキャリアや社会で善く生きていく術を知ることができたのは大学4年間の中でも大きな学びになったと思います。
- ・コロナ禍なので致し方ないが、開催形式により内容に差が出るのがもったいないと感じていたが、私はオンライン形式であっても多くの学習と経験をさせていただき、メリットは多くあることを実感した。
- ・コロナ禍の状況を考慮し、zoomを通して事前学習を行うなど、実施方法を工夫しながら行っていただけたこと、大変感謝しております。
- ・実習だけでなく、事前学習でもたくさんアドバイスを頂き、コンソーシアムのインターンシップ・プログラムに参加して良かったと思った。
- ・事前学習で実習やこれから必要な事を学べたことや、他大学の方と意見交流できたことで考え方や視野が広がった。

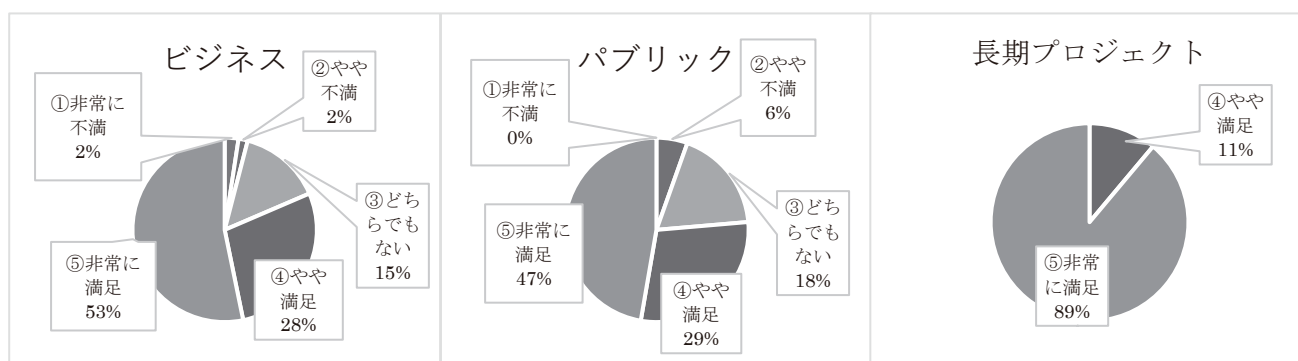
《長期プロジェクトコース》

- ・発表する機会が多く、発言力が少しは身に付いたと思う。
- ・インターンシップを通して、コミュニケーションの取り方や、チームで動くことの難しさを感じました。これは、とても大きな経験でした。感謝です。
- ・活動期間を長く感じる時期もありましたが、終えてみると、長期間だったからこそ学べるものがたくさんありました。学校では得られない貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ・インターンシップやプログラムなどを通して大学での学びとリンクさせ、課題解決するプロセスを実践できたり、実習先、チーム内で合意形成を図りながら進めていくことができ、大きな変容が起こる(大きな成長につながる)インターンシップとなりました。
- ・チームとして100%の力を出したかった。他の人の主体性の引き出し方が分からなかった。
- ・コーディネーターの先生がいることは心強く感じた。インターンシップに初めて参加したので不安だったが、事前学習があり安心できた。
- ・期間が長い分、じっくりとプログラムに取り組むことができ、多くの学びがあったから。また、受け入

れ先、コーディネーターの先生、事務局の方のサポートが手厚かったから。

- ・"講義で学んだことを実習で実践して活かすことが出来、成長に繋がったから。コロナでほぼオンラインだったが、他大学の生徒と交流する機会があったり、他のプロジェクトチームの発表が聞けたりと刺激を受けることも沢山あったから。"
- ・就職直結型のインターンシップとは違い、大学生活に活かせる学びがあったため。
- ・幅広い挑戦ができ、多くの方から学ぶ機会を得られたことは学生生活でも限られており、自分自身を振り返るきっかけとなったからです。
- ・インターンシップ先で大きな差が出ていたと思います。
- ・地域活性化のリアルを知ることができたから。
- ・インターンシップの活動だけでなく、講義では社会人基礎力を身に付けることができ、とても充実していたから。
- ・参加しなければ、退屈な生活を送っていたであろうから
- ・本インターンシップを通して今後活かせる課題やキャリアの選択肢が見つかり、参加当初の期待を上回るものとなりました。
- ・今までの人生の中で一番楽しく、成長できる経験でした。

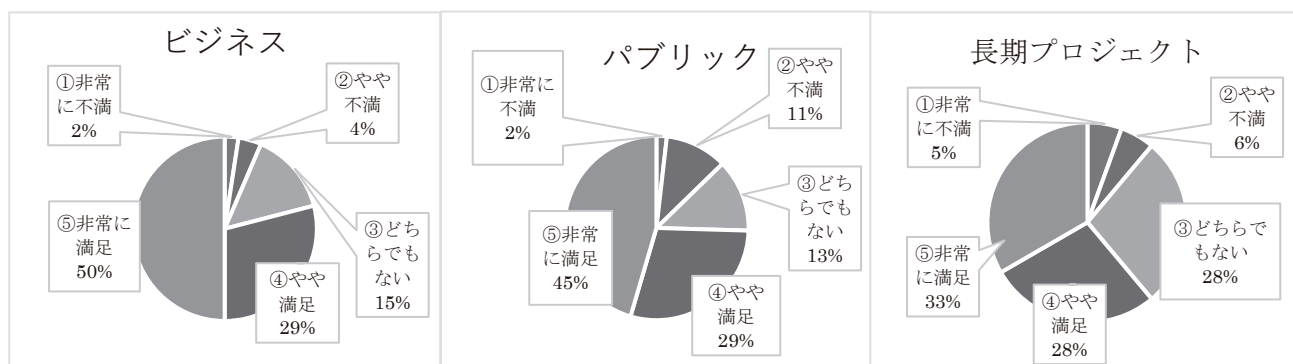
●事務局について



- ・連絡やサポートなど丁寧且つ細やかにしてくれたおかげで、とても安心して実習に挑むことができた。
- ・コロナ禍ということで、オンライン対応となったにも関わらず、私達のために学びの体制を整えていただき、本当にありがとうございました。このような貴重な機会をいただけたことに感謝し、この学びを就職活動や今後の活動に活かしたいと思います。
- ・一度、実習先担当者様の連絡先の件でトラブルがありましたが、それ以外はとても良い扱いを受けたと感じています。大変お世話になりました。
- ・前例のないオンライン形式で、融通が利かないことがたくさんあったのにも関わらず、丁寧な対応をありがとうございました。
- ・丁寧に対応して頂けて、自分一人でインターンに行くよりも心強かったです。
- ・体調不良でインターンシップへの参加を迷っていた時に親身になってお話を聞いて、対応していただいたので相談してよかったと思いました。本当にありがとうございました。
- ・事前学習の初日に辞退しようとお電話させていただきました。そこで対応していただいた事務局の方に辞退を引き止めていただいていたなければ今回の経験はなかったため、本当に良かったです。

- ・連絡することはほとんどなかったが、ZOOM 会議などの進行はわかりやすく、聞きやすい構成だった。
- ・講義中、先生が zoom に手間取ることが多く、事務局の方が画面の前にいないことがあり、すぐに対応していただかず先生に放置される時間があり、もったいないなと感じました。
- ・オンラインのためトラブルはあったが対応が迅速でした。
- ・PCR 検査費用は、遅れながらもしっかり対応していただき、影で支えてくださり感謝しています。
- ・コロナ禍の中で受け入れ先を見つけていただきとても感謝している。
- ・何故か実習日誌の提出案内のメールが届きませんでした。追記のメールで気付くことが出来たが、とても不安になりました。今後インターンシップ受講予定の方に同じ事が起こらないことを祈ります。
- ・丁寧な対応と厚いサポートをしてもらえた。自分達の発表と企画が出来たのは事務局の方々が協力して頂いたおかげだ。

●コーディネーターについて



《ビジネスコース／パブリックコース》

- ・レポートやパワーポイントなど全ての課題に対して的確なアドバイスをくださりました。今後の大学での課題で活かせるものや、社会人になるまでどの様な事をすればよいのかなどといった沢山のアドバイスを頂きました。とても良いコーディネーターに出会えました。先生が仰って下さった事を頭に入れて日々の大学生活や就職活動を頑張りたいと思います。ありがとうございました。
- ・中間指導でお会い出来ましたが、企業という私たちにとって非日常の環境でしたので、お話出来て大変安心致しました。
- ・とても楽しいクラスだった。
- ・全体的にダメなことはダメとはっきりおっしゃってくださったので、とても助かった点が多かったのですが、発表会の進め方やレポートに関しての対応が曖昧・伝達事項の連絡の遅さが気になりました。
- ・初めてのインターンシップで多く失敗をしたが、先生のアドバイスは非常に的確で理解しやすかった。
- ・事前・事後レポートを毎回丁寧に添削していただき、本当に助かりました。質問をした際にも、毎回丁寧に対応していただき、ありがとうございました。
- ・インターン先での疑問点やレポートの書き方について指南していただき、とても助けていただいた。またオンラインでのクラス学習についても学生同士が積極的にコミュニケーションを取れるようブレイクセッションを多数設けていただくなど工夫されていた。
- ・面談でお越し頂いた際は寄り添って話を聞いて頂けたので感謝しています。
- ・先生のおかげでクラスの雰囲気も良く、参加しやすかったので本当に感謝しております。心からこのク

ラスで良かったと思います。

- ・事前・事後レポートだけでなく、事前訪問のアポイントを取る際のメールまで丁寧に添削してくださり、とても心強かったです。大学の先生がコーディネーターとして指導してくださるというのは、他のインターンシップではなかなかないことなので、このインターンシップ・プログラムの大きな魅力だと感じました。
- ・わたしに対してではないが、ゼミの担当の先生が生徒を責め立てたり、きつい言葉を言う場面があったのが気になった。
- ・とても人柄がよく、人を安心させるような方で、不安よりも「頑張ろう」と思わせてくれる方でした。
- ・とても親身に教えてくださり、また指示を的確だったので、学習をスムーズに進めることができました。
- ・中間指導の際、学校のことなど何かあったら相談に乗るとおっしゃっていただきうれしかった。
- ・He was very understanding and assisted me in English also sometimes.
- ・ご多忙の中、一人一人丁寧な対応をしていただきありがとうございます。先生のサポートがあったからこそ、実習への不安や悩みを解消し、実習に挑むことができました。私達の実習がより良いものになるように尽力していただけたこと、感謝いたします。本当にありがとうございます。
- ・共有してくださる情報が、他のゼミクラスや事務局と少しズレていることがあり、気になりました。
- ・明るい先生で、私たち受講生を気に掛けて下さったので嬉しかったです。
- ・これまでであった先生方とはまた違った面白さや魅力のある先生で、とても頼りになる存在でした。学生のことをとても親身になって応援してくださり、この先生のクラスで良かったと思います。・コーディネーターの先生の指示がわかりにくいことがあったので、クラスの学生も理解せずに進めていたような場面が多々見られました。お伺いしていればよかったなと自分自身の反省もあります。
- ・お忙しいことと思うが、クラスのコーディネーターと連絡がなかなかつかない所が少し大変でした。
- ・穏やかで常に生徒に寄り添ってくれている先生だったので、相談や質問がしやすかったです。

《長期プロジェクトコース》

- ・コーディネーターの方の専門分野と企業の分野が似ていたため、参考になるアドバイスをたくさんいただきました。
- ・コーディネーターの先生には活動の進捗や行き詰まっている点を解決する方法をご指導くださり、活動を円滑に進めることができました。具体的にはアンケート実施において、質問項目が適切なものであるか、また企画のスケジューリングやアポイントメントの進捗などを確認してくださり、都度解決することができたことで、効率的な活動となった点、大変お世話になりました。またチーム内の様子や役割についても気にかけてくださり、活動しやすい環境でした。ありがとうございました。
- ・もう少し親身に相談乗って欲しかった。
- ・私たちの視点にはないアドバイスや、適切なタイミングでのアナウンスなど、非常に助かりました。ありがとうございます。
- ・上手く実習先との橋渡しをしてもらえた。必要なところで教育して頂いた。

第5章 今後の課題

1 インターンシップ巡る現状

財団によるインターンシップ・プログラムは、1998年度から22年にわたり大学と連携し、大学から社会への接続を目的としたキャリア教育プログラムとして充実を図ってきた。昨今の新型コロナウイルス感染症により、2020年度は、開講後初めてプログラムを中止することとなったが、今年度は各種社会状況の変化を踏まえ、プログラム実施の判断をした。近年、インターンシップの社会的普及の中で、全国の大学、企業・団体がそれぞれ独自にインターンシップ・プログラムを展開しているが、企業・団体による採用を目的としたインターンシップの増加が顕著となっている。その影響もあり、本財によるプログラムへの参加学生及び受入協力の企業・団体は年々減少傾向にある。

一方で、学生は、新型コロナウイルス感染症の影響下でも、今後の社会生活を見据えて積極的に活動できる機会を求めている。また、企業・団体からは、学生のキャリア教育のためのインターンシップが、学生指導にあたった社員の育成や職場活性化に繋がることなどの期待が寄せられている。

このように財団プログラムへの期待も高まる中、学生が京都の多くの企業・団体への関心を高め、より自己の職業観を深めるとともに、受入先企業・団体の組織課題や人材育成などに資することを含めたプログラムへの改善を進め、京都地域全体での人材育成と社会活性化を促進する仕組みにしていくなが必要となってきた。

2 財団プログラムの現状

財団インターンシップ・プログラムは、学生を対象とした教育プログラムとしての質的向上と併せて、受入協力の企業・団体における組織的な課題の対応や人材育成及び学生の企業・団体、業界への関心向上に資することを目的に改善を進めてきている。

採用直結型のインターンシップの定着、インターンシップの選択肢の増加や就活スケジュールの変化等に伴い、参加者の大半を占める3回生のキャリア教育に関する意識も変化している。一方で、2回生以下のインターンシップへの関心は高まっており、低年次に受講する「教育プログラム」に高い意義が見込めることから参加を促した結果、2021年度の低回生の参加は全体の30%まで増加している。

今年度新たな取組として、長期プロジェクトコースについては、外部講師による講演（「広報を学ぶ」「ITで変わる仕事」）を実施し、プロジェクト運営に係る知識の拡充を図った。また、ビジネスコース・パブリックコースについては、オンライン実習が実施された受入先もあり、コロナ禍での対応にとどまらない、様々な働き方を体験できる機会の提供に繋がった。

継続した課題としては、加盟大学が実施するインターンシップ・プログラムの今後の方向性の調査と連携のあり方、優れた実習プログラムを実施する受入先企業・団体と大学との接点の拡大、修了生（OB・OG）との継続的な連絡体制の構築と現役学生への教育支援、新たなインターンシップ・プログラムを展開するための調査研究、新たなチャンネルによる広報の促進などを検討していく。

資料1. 出願者・受講者数と受入れ企業・団体数について

1) コース別 出願者数

コース名	学生			企業・団体		
	出願者数	実習許可者数	修了者数	登録団体数	受入れ団体数	受入れ率
ビジネス	338	163	148	103	71	68.9%
パブリック		68	58	33	19	57.6%
長期プロジェクト	24	22	19	14	7	50.0%
合計	362	253	225	150	97	64.7%

2) 学年別 出願者数と受講率

学年	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
1年次(回生)	11	3.0%	9	3.6%	81.8%
2年次(回生)	106	29.3%	69	27.3%	65.1%
3年次(回生)	237	65.5%	170	67.2%	71.7%
4年次(回生)	4	1.1%	2	0.8%	50.0%
5年次以上(回生)	1	0.3%	0	0.0%	0.0%
大学院生	3	0.8%	3	1.2%	100.0%
合計	362	100.0%	253	100.0%	69.9%

3) 男女別 出願者数と受講率

	出願者数		実習許可者数		受講率
	人数	全体に占める割合	人数	全体に占める割合	
男性	105	29.0%	67	26.5%	63.8%
女性	257	71.0%	186	73.5%	72.4%
合計	362	100.0%	253	100.0%	69.9%

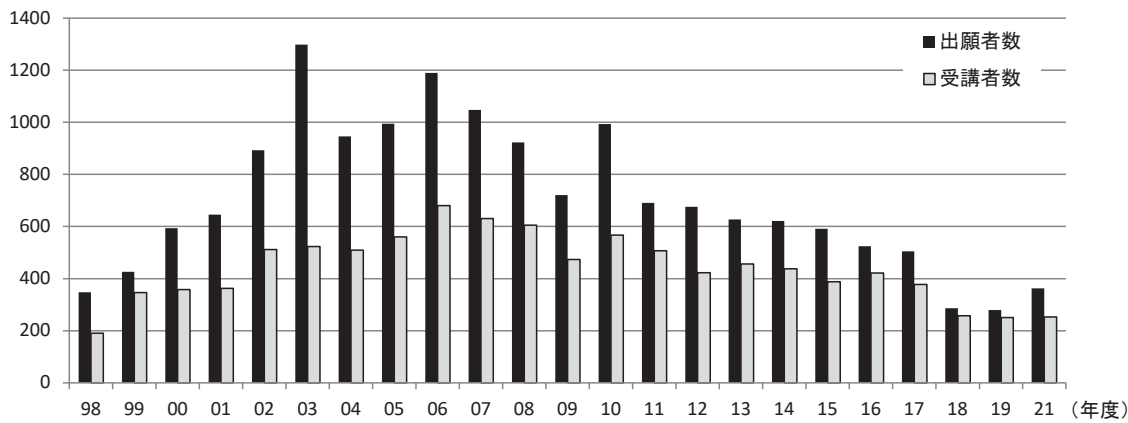
4) 大学別 出願者数

	大学名	出願者数	実習許可者数		大学名	出願者数	実習許可者数
加盟大学	京都大学※大学院生含む	3	2	加盟大学	京都文教短期大学	0	0
	京都教育大学	2	2		京都薬科大学	0	0
	京都工芸繊維大学	0	0		嵯峨美術大学	0	0
	京都市立芸術大学	0	0		嵯峨美術短期大学	0	0
	京都府立大学	8	5		種智院大学	0	0
	京都府立医科大学	0	0		成安造形大学	5	2
	福知山公立大学	0	0		同志社大学	38	24
	池坊短期大学	0	0		同志社女子大学	8	4
	大谷大学	10	9		花園大学	8	7
	京都医療科学大学	0	0		佛教大学	8	5
	京都外国語大学	10	5		平安女学院大学	1	1
	京都外国語短期大学	2	0		平安女学院大学短期大学部	0	0
	京都華頂大学	0	0		明治国際医療大学	0	0
	華頂短期大学	0	0		立命館大学※大学院生含む	41	26
	京都看護大学	0	0		龍谷大学	51	48
	京都経済短期大学	0	0		龍谷大学短期大学部	0	0
	京都芸術大学	0	0		大阪医科大学	0	0
	京都光華女子大学	27	21		京都情報大学院大学	0	0
	京都光華女子大学短期大学部	0	0		放送大学 京都学習センター	0	0
	京都産業大学	26	14	非加盟大学	愛媛大学	1	0
	京都女子大学	36	28		大阪大学	0	0
	京都精華大学	1	1		岡山大学	1	0
	京都西山短期大学	0	0		滋賀大学	2	1
	京都先端科学大学	11	6		奈良女子大学	1	1
	京都橘大学	12	8		奈良県立大学	2	1
	京都ノートルダム女子大学	13	8		関西学院大学	1	0
	京都美術工芸大学	0	0		近畿大学	2	0
	京都文教大学	31	24		出願者総数	362	253

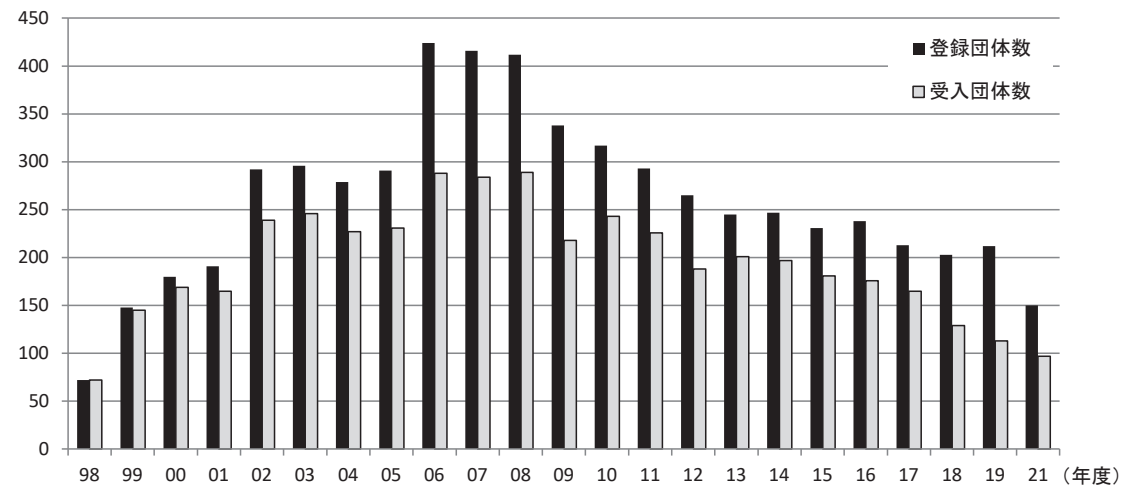
資料2. 参加団体・出願者・受講者・コーディネーター（CO）数の推移

年度	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	21
出願者数	348	426	593	646	893	1298	946	994	1189	1047	923	721	993	690	676	627	621	591	524	505	286	279	362
受講者数	190	346	358	363	512	523	509	560	680	630	605	473	567	507	422	456	437	388	421	378	257	250	253
登録団体数	72	148	180	191	292	296	279	291	424	416	412	338	317	293	265	245	247	231	238	213	203	212	150
受入団体数	72	145	169	165	239	246	227	231	288	284	289	218	243	226	188	201	197	181	176	165	129	113	97
CO人数	9	12	13	16	27	26	30	32	39	40	43	37	37	38	37	35	32	31	33	33	24	24	22

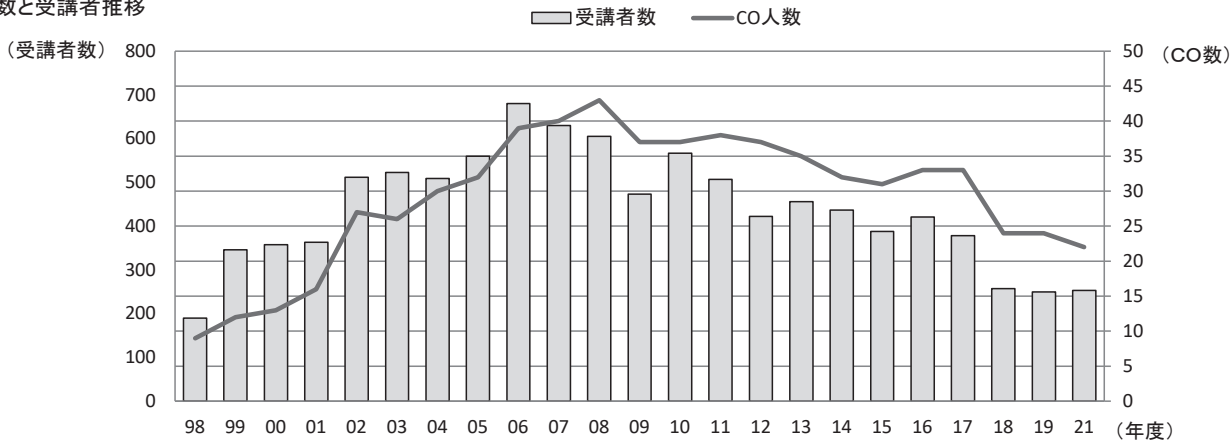
出願者数の推移



参加団体数推移



CO数と受講者推移



資料3. 受入先登録企業・団体一覧

ビジネスコース/パブリックコース

■製造(食品)

株式会社石田老舗
亀屋良長株式会社
株式会社西利

■製造(電気機械設備)

株式会社カシフジ
金井ホールディングス株式会社
寺崎電気産業株式会社
パナソニックシステムソリューションズ
ジャパン株式会社 関西社
株式会社壬生電機製作所
由利ロール株式会社
和晃技研株式会社

■製造(半導体・精密機器)

株式会社魁半導体
株式会社積進
株式会社大東技研

■製造(その他)

株式会社加貫ローラ製作所
株式会社セイワ工業
株式会社箭木木工所

■情報・通信・IT

協和テクノロジーズ株式会社
株式会社クラックスシステム
大和電設工業株式会社
株式会社ディレクターズ・ユニブ

■不動産・建築設計

株式会社インテリアホソイ
京都駅ビル開発株式会社
株式会社空間デザイン
有限会社一級建築士事務所 ターボ設計
株式会社長栄
株式会社莫設計同人
株式会社フラットエージェンシー
株式会社プロミネンス
株式会社ロイヤル住建
株式会社ローバー都市建築事務所

■マスコミ・広告・印刷・出版

アートム株式会社
株式会社あおぞら印刷
株式会社京都通信社
公益財団法人南丹市情報センター
株式会社文化時報社
宮川印刷株式会社
株式会社ユニオン・エー
株式会社らくたび

■デザイン

株式会社ジイケイ京都

■金融・証券・保険

株式会社葵総合保険
株式会社エスアールエム
SMBC日興証券株式会社
株式会社ラクール保険事務所

■士業(法律・会計事務所)

特許業務法人京都国際特許事務所
こもだ法律事務所
弁護士法人中村利雄法律事務所

■コンサルティング・調査・研究

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所
しあわせ総合研究所グループ
株式会社地域計画建築研究所
株式会社地域未来研究所

■人材ビジネス

株式会社OVO

■医療・福祉

公益社団法人
京都市身体障害児者父母の会連合会
社会福祉法人京都福祉サービス協会
社会福祉法人行風会
社会福祉法人十条龍谷会
社会福祉法人清和園
京都市久世特別養護老人ホーム
武田病院グループ本部福祉介護部
社会福祉法人同胞会 同胞の家

■エンタテインメント

ビーイングホールディングス株式会社

■レジャー・アミューズメント

オーパルオブテックス株式会社
近鉄レジャーサービス株式会社
(志摩スペイン村)
Y'sスポーツガーデンパデル京都

■ブライダル

株式会社エイジェイクリエーション

■観光・旅行

株式会社富田屋
有限会社丸益西村屋

■ホテル・旅館

里湯昔話 雄山荘
柊家株式会社
株式会社国華荘 びわ湖花街道

■小売・販売・専門店

株式会社京織 京都さかの館
京都生活協同組合
生活協同組合コープしが
丹波ワイン株式会社
株式会社花工房
丸善雄松堂株式会社京都支店

■商社・卸売

株式会社ウエダ本社
三共精機株式会社
株式会社ヒトミ
富士フィルムビジネスイノベーション
ジャパン株式会社京都支社

■安全・メンテナンス・清掃

株式会社アイアム
京都エレベータ株式会社
株式会社ワタナベ美装

■運輸・物流

株式会社塚腰運送

ビジネスコース/パブリックコース

■教育(学校・大学等)

大谷大学
学校法人龍谷大学
京都外国語大学 京都外国語短期大学
京都光華女子大学・
京都光華女子大学短期大学部
京都産業大学
京都精華大学京都国際マンガミュージアム
京都先端科学大学
京都大学
京都文教大学
京都薬科大学
社会福祉法人熊千代会
こぐま上野保育園
公益財団法人 大学コンソーシアム京都
同志社大学
学校法人佛教教育学園 佛教大学
立命館大学

■その他

京都工業株式会社
京都中小企業家同友会
サンスイコンサルタント株式会社
株式会社乃村工芸社
公益財団法人びわ湖芸術文化財団
株式会社ユメコム

■官公庁

綾部市役所
宇治市役所
近江八幡市
大津市役所
川西町役場
京田辺市
京都市
滋賀県庁
吹田市役所
摂津市
長岡京市役所
東近江市役所
彦根市
枚方市
文化庁地域文化創生本部
守山市役所
野洲市役所
八幡市役所
栗東市役所

■非営利組織

特定非営利活動法人
アントレプレナーシップ開発センター
一般財団法人大阪教育文化振興財団
特定非営利活動法人気候ネットワーク
特定非営利活動法人京都藝際交流協会
公益財団法人
京都市音楽芸術文化振興財団
公益財団法人京都市国際交流協会
京都市野外活動施設 花背山の家
公益財団法人京都市ユースサービス協会
一般財団法人京都ユースホステル協会
特定非営利活動法人
クリエイター育成協会
公益財団法人
公害地域再生センター(あおぞら財団)
特定非営利活動法人子育て
コミュニティおふいすパワーアップ
特定非営利活動法人
とよなか市民環境会議アジェンダ22
認定NPO法人びわこ豊穡の郷

長期プロジェクトコース

特定非営利活動法人気候ネットワーク
株式会社インサイトハウス
株式会社デアライブ
関西巻取箔工業株式会社
株式会社大槻シール印刷
一般社団法人KOKIN
京都市北青少年活動センター
京都市下京青少年活動センター

チャレンジつねよし百貨店実行委員会
特定非営利活動法人
山科醍醐こどものひろば
特定非営利活動法人
クリエイター育成協会
有限責任事業組合
まちとしごと総合研究所
株式会社みらいもりやま21
一般社団法人Impact Hub Kyoto

資料4. 長期プロジェクトコース講義概要

	全体の 流れ	日程	コマ	時間	講義名	講義形式	内容	会場		
プロジェクト 実施期 間	プロジェクトの 導入	6/17 (木)	第1講	18:30～ 19:30	オリエンテーション(プログラムの概要) リスクマネジメント講習	全受講生 合同	プログラムの概要、諸注意、事務連絡、担当Coの紹介。 各プロジェクトごとに自己紹介をし、受入先から目標の提示を受ける。 プロジェクト参加に当たり留意すべき点・約束事について説明を受け る。	オンライン (ZOOM)		
			第2講	19:40～ 21:10	プロジェクトのテーマの共有とチーム形 成(プロジェクト概要の発表)		各プロジェクトのテーマを発表し共有する。その後、受入先や教員から アドバイスを受ける。			
			受入先事前訪問期間:6月18日(金)～6月23日(水)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打ち合わせを行い、プロジェクトについて指導、アドバイスを受け る。(プロジェクトごとに設ける)							
	プロジェクトの形成	6/24 (木)	第3講	18:30～ 19:30	コミュニケーショントレーニング	全受講生 合同	就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニ ケーション能力等について、専門講師による講習を受ける。	オンライン (ZOOM)		
			第4講	19:40～ 21:10	プロジェクトの形成 (ワークシートの進め方ワークシート①)	全受講生 合同	PCM等によりプロジェクト形成の概要を学び、ワークシート記入・使用 についての指導を受け、ワークシート①<プロジェクトの目標の明確化 >を完成させる。			
		7/1 (木)	第5講	18:30～ 19:30	プレゼンテーショントレーニング (映像コンテンツの活用法 講義)	全受講生 合同	映像を使用したプレゼンテーションのポイントや方法等についての講義 を受け実践する。	オンライン (ZOOM)		
			第6講	19:40～ 21:10	プレゼンテーショントレーニング (映像コンテンツの活用法 実践)					
		7/8 (木)	第7講	18:30～ 19:30	プロジェクトの形成 (ワークシート②)	各プロジェ クト	ワークシート②<プロジェクトの成果と活動の明確化>を完成させる。	オンライン (ZOOM)		
			第8講	19:40～ 21:10	プロジェクトの形成 (ワークシート③)		ワークシート③<活動計画表>を完成させる。			
		7/15 (木)	第9講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (今後の活動の確認、活動計画の発表)	全受講生 合同	プロジェクト活動計画表の発表。他プロジェクトの受講生との意見交換 を行い、プロジェクト活動の完成度を高める。	キャンパス プラザ京都		
			第10講	19:40～ 21:10	プロジェクト・マネジメント (他プロジェクトとの意見交換)					
		7/22 (木)	補講日	18:30～ 19:30	※夏期休暇前に講義休止が発生した場合の予備日					オンライン 又はキャン パスプラザ 京都
			補講日	19:40～ 21:10						
			夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。							
		9/2 (木)	第11講	16:50～ 17:50	サマーセッション プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動中間報告)	全受講生 合同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇中間時点での進捗状況を報 告しあい、質問や感想を交換する。	オンライン (ZOOM)		
			第12講	18:00～ 19:30	サマーセッション (広報を学ぶ)		外部講師を招き、ソーシャルメディアによる広報を学ぶ。			
			第13講	19:40～ 21:10	サマーセッション (ITで変わる仕事)		外部講師を招き、新しい仕事の進め方について学ぶ。			
				夏期休暇中には、受入先ごとにプロジェクトを行います。						
	プロジェクトの振り返り	9/30 (木)	第14講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト夏期活動最終報告)	全受講生 合同	それぞれのプロジェクトにおける夏期休暇終了時点の進捗状況を報告 しあい、質問や感想を交換する。	オンライン (ZOOM)		
			第15講	19:40～ 21:10						
		10/7 (木)	第16講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト評価方法の概要)	全受講生 合同	プロジェクト評価の方法を学び、プロジェクト・プレゼンテーションにつな げる。	キャンパス プラザ京都		
			第17講	19:40～ 21:10	プロジェクト・マネジメント (ワークシート④)	各プロジェ クト	ワークシート④<プロジェクトの評価>を完成させる。			
		10/21 (木)	第18講	18:30～ 19:30	プロジェクト・マネジメント (プロジェクト・プレゼンテーションにむけ たプレゼンテーション準備)	各プロジェ クト	プロジェクト・プレゼンテーションにむけたプレゼンテーション準備を行 う。	キャンパス プラザ京都		
			第19講	19:40～ 21:10						
		10/28 (木)	補講日	18:30～ 19:30	※夏期休暇後に講義休止が発生した場合の予備日					オンライン 又はキャン パスプラザ 京都
			補講日	19:40～ 21:10						
	プロジェクト報告・評価	11/6 (土)	第20講	10:40～ 12:10	プロジェクト・マネジメント (自己評価:プログラム受講を通して自 己の変化を振り返る)	全受講生 合同	プログラム受講を通して、自己の変化を振り返る。	キャンパス プラザ京都		
			第21講	13:00～ 14:30	プロジェクト・プレゼンテーション 修了式		約5ヶ月にわたるプログラムの総括として、プロジェクトごとに活動報告 を行う。全体で、それぞれのプロジェクトの到達点について相互評価を 行い、今後の学生生活の目標を明らかにする。			
			第22講	14:40～ 15:40						
			第23講	15:50～ 17:50						

- 講義は感染症の拡大状況他、その他の社会状況によりキャンパスプラザ京都(対面)またはオンライン(ZOOM)にて実施します。
- 7月、8月、9月の毎週少なくとも1回は受入先または実習現場(オンラインを含む)での活動を行います。
- 学習レポートおよびプロジェクト報告書 Web提出期間:11月6日(土)～11日(木) ※最終日の締切は 16:00 です。(時間厳守)

資料5. 長期プロジェクトコース プロジェクト別コーディネーター一覧

受入先	プロジェクト概要	受講者数	コーディネーター
株式会社 インサイトハウス	【きょうのやましなさんプロジェクト】 京都市山科地域の魅力と人の温かさを発信することで、人と人の繋がりを作り、街の活性化につなげます。SNSでの発信や、フリーペーパーの企画作成を行います。	3	小辻 寿規 立命館大学 共通教育推進機構
株式会社 デアライブ	【京都のインバウンド観光情報メディアコンテンツ拡充】 京都の魅力ある場所を見つけ、外国人観光客への動画インタビューサイト「Traveler's Voice of Kyoto」での記事執筆を目指します。	2	◎桜沢 隆哉 京都女子大学 法学部
関西巻取箔工業 株式会社	【“創る”×“伝える”で、なりたい自分を見つける！】 自分たちが大切にしているコトがどうすれば人のココロに響くかを、実習先と一緒に考えて発信していくプロジェクト。箔の魅力を伝える成果物を創ります。	2	○吉田 咲子 京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期大学部 キャリア形成学部
株式会社 大槻シール印刷	【きょうのやましなさんRediscovery Label おもろいシール・ステッカーの創作】 シール印刷の実際を理解しながら、学生の感性でみなさんが思わず「おもろい！」と言ってしまうようなシールの開発に取り組みます。	4	西村 雅信 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科 デザイン・建築学系
一般社団法人 KOKIN	【京都北部の観光振興企画・提案project】 舞鶴で地域資源を活かしたまちづくりを進めるKOKINとともに、「京都一、チャンスのあるまち」を実現するため、ビジネス機会の企画提案やイベント企画を行います。今回は「観光振興」にフォーカスしています。	4	坂本 清彦 龍谷大学 社会学部
有限責任事業組合 まちとしごと 総合研究所	【SDGsの観点からまちの活動団体さんの 次の一歩を応援・提案する支援プロジェクト】 今回は、オトナリラボさん、堤浅吉漆店さんの2チームに分かれて活動します。SDGsを見出し、調査研究、活動の企画実施などを行うSDGs支援プロジェクトに取り組みます。	5	深川 光耀 花園大学 社会福祉学部
株式会社 みらいもりやま21	【起業家のまち「もりやま」を目指してプロジェクト】 守山市出資のまちづくり会社「みらいもりやま21」にて地域の課題を解決するビジネスモデルを構築すべく活動します。今回は、もりやまの起業家に取材をし、地域の力を発信します。	2	築地 達郎 龍谷大学 社会学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料6. ビジネスコース・パブリックコース講義概要

日程	コマ数	時間	講義名	講義形式	内容
6/19 (土)	第1講	10:00～10:30 (30)	オリエンテーション①:プログラム参加にあたって	全受講生 合同	プログラムの概要や、プログラムに臨む心構え等を説明します。
		10:30～11:00 (30)	リスクマネジメント講習①:事前学習に向けての心構え		インターンシップ・プログラムを受講する上でのリスクマネジメントを学びます。
	第2講	11:20～12:50 (90)	クラスの相互理解	ゼミ	クラスに分かれ、担当教員を中心として、クラスメンバーの紹介をします。
	第3講	13:50～15:20 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定	ゼミ	グループディスカッションを中心として、仮説と実習目標設定のための意見交換を行います。
	第4講	15:30～16:30 (60)	コミュニケーショントレーニング		就業意識の向上、ビジネスマナーの基本、対人関係の中でのコミュニケーション能力等について、専門講師を招いて講習します。オンラインでのコミュニケーションの取り方を学びます。
	第5講	16:40～18:10 (90)			
受入先との事前打合せ(初顔合わせ):6月24日(木)～7月9日(金)の間に実習先を訪問またはオンラインでの打合せを行い、実習内容・期間の確認、事前学習レポート作成に向けて、アドバイス等の指導を受ける。					
7/3 (土)	第6講	10:00～11:30 (90)	業界と社会に対する学習①	ゼミ	受入先担当者や修了生のゲストスピーカーによるお話をもとに受入先について探求し、事前学習レポート作成のポイントを学び、内容を深めます。
	第7講	11:40～12:40 (60)	業界と社会に対する学習②		
	第8講	13:40～15:10 (90)	スキルアップトレーニング	ゼミ	ロジカルシンキングの獲得を目指し、専門講師を招いて実践的理論を学びます。オンラインでのグループワーク、コミュニケーションの取り方を学びます。
	第9講	15:20～16:50 (90)			
7/10 (土)	第10講	10:00～11:30 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定①	ゼミ	グループディスカッションを通じ、事前学習の総まとめとして、実習目標を明確にします。また、事前学習レポートの書き方のポイントを学びます。
	第11講	12:30～14:00 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定②	ゼミ	
	第12講	14:10～15:40 (90)	実習に向けた仮説と目標の設定③	ゼミ	事前学習レポートの内容をより深めます。
	第13講	16:00～17:00 (60)	リスクマネジメント講習②:実習・事後学習に向けての心構え	全受講生 合同	実習中に留意しなくてはならないリスクについて学びます。実習にあたっての準備、確認・注意事項を確認します。
		17:00～17:30 (30)	オリエンテーション②:実習・事後学習に向けての事務連絡		レポート提出、実習中、事後学習に必要なポイント説明、事務連絡を行います。
7/17 (土)	予備日	10:00～18:00	※事前学習日に講義休止が発生した場合の予備日		
実習の実施(原則として8月1日～9月17日の期間で実施されます。実習期間中に担当コーディネーターによる中間指導があります。)					
9/11 (土)	補講日	9:00～10:30 (90)	※クラスによって実施される場合があります		
		10:50～12:20 (90)			
9/18 (土)	第14講	10:00～11:00 (60)	実習経験の共有①	ゼミ	実習において得たことや感じた課題等について相互に発表を行い、個々の体験をクラスで共有します。それらに基づくディスカッションを通して仮説の検証を行い、レポートの内容を深めます。
	第15講	11:10～12:10 (60)	実習経験の共有②		
	第16講	13:10～14:40 (90)	実習経験の共有③	ゼミ	実習経験交流会に向けて、クラスとしての経験共有をまとめます。
	第17講	15:00～16:30 (90)	実習経験交流会	ゼミ合同	実習を通して学んだことをゼミごとに発表し、他のゼミの発表を聞くことで、考え方や伝え方などを学び、事後学習レポートの内容に反映させます。
	第18講	16:40～17:40 (60)	実習経験の振り返り／全体講評／修了式		他のゼミからのコメントから各クラスで振り返りを行った後、全体講評による振り返りと修了証を授与します。
9/25 (土)	予備日	10:00～18:00	※事後学習日に講義休止が発生した場合の予備日		

■事前学習レポートWeb提出期間:7月10日(土)～24日(土)

■事後学習レポートWeb提出期間:9月18日(土)～10月2日(土) ※事前/事後学習レポート提出最終日の締切は 16:00 です。(時間厳守)

資料7. ビジネスコース・パブリックコースコーディネーター一覧

コース	主な業種・業界	クラス	受講者数	氏名	大学	所属等
ビジネス	不動産・建築設計 デザイン	B1	15	嘉本 伊都子	京都女子大学	現代社会学部
	金融・証券・保険 士業(法律・会計事務所) コンサルティング・調査・研究	B2	17	○ 三浦 潔	京都文教大学	総合社会学部
	マスコミ・広告・印刷・出版 非営利組織	B3	19	濱田 崇嘉	龍谷大学	経営学部
	人材ビジネス、医療・福祉 教育(学校・大学等) その他	B4	15	三保 紀裕	京都先端科学大学	経済経営学部
	レジャー・アミューズメント エンターテインメント、観光・旅行 不動産・建築設計、その他	B5	16	中道 一心	同志社大学	商学部
	教育(学校・大学等)	B6	12	浅若 裕彦	大谷大学	国際学部
	教育(学校・大学等)	B7	14	岸 基史	同志社大学	経済学部
	ブライダル、ホテル・旅館 非営利組織	B8	14	丸 山 一 芳	京都橘大学	経営学部
	小売・販売・専門店 製造(食品)	B9	15	岸岡 洋介	京都外国語大学	外国語学部
	商社・卸売 情報・通信・IT マスコミ・広告・印刷・出版	B10	16	◎ 多田 実	同志社大学	政策学部
	商社・卸売、運輸・物流 安全・メンテナンス・清掃 製造(電気機械設備、半導体 ・精密機器、その他)	B11	15	穂崎 良典	京都産業大学	共通教育推進機構
パブリック	非営利組織	P1	16	平本 毅	京都府立大学	文学部
	官公庁	P2	17	高野 拓樹	京都光華女子大学・ 京都光華女子大学短期 大学部	キャリア形成学部
	官公庁 非営利組織	P3	17	◎ 古川 秀夫	龍谷大学	国際学部
	官公庁	P4	13	○ 黒宮 一太	京都文教大学	総合社会学部

◎:総合コーディネーター ○:チーフコーディネーター

資料8. 受講生意識調査集計結果

就職に対する意識や自己理解に関する質問項目を設定し、実習若しくはプロジェクト実施の前後に同じ質問に回答する形式の調査を行い、インターンシップが与える影響についての考察を加えた。

社会人として仕事をするうえでの知識や心構えに関わる「就職レディネス」、自己管理能力の感覚に関わる「有能感」、自らの社会における立場をわかまえているかについて知る「自己主体性」の3つの要素を測定するため、30項目の指標を用いた(表-1)。

また、各質問についてはそれぞれ「非常に当てはまる」を6点、「かなり当てはまる」を5点、「やや当てはまる」を4点、「やや当てはまらない」を3点、「かなり当てはまらない」を2点、「全く当てはまらない」を1点として、平均点を算出し、グラフ化して比較した(表-2)。

1.実施日

ビジネスコース・パブリックコース

2021年6月17日～6月19日／2021年9月18日～9月20日

長期プロジェクトコース

2021年6月15日～6月17日／2021年11月6日～11月8日

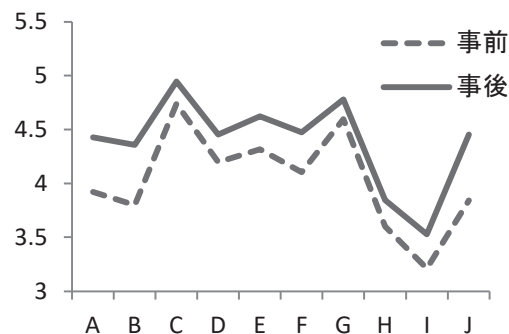
2.回答数

	実習許可 者数	事前		事後	
		回答数	回答率	回答数	回答率
ビジネスコース	163	219	94.8%	179	77.5%
パブリックコース	68				
長期プロジェクトコース	22	19	86.4%	20	90.9%
合 計	253	238	94.1%	199	78.7%

表-2. 意識調査結果(比較)

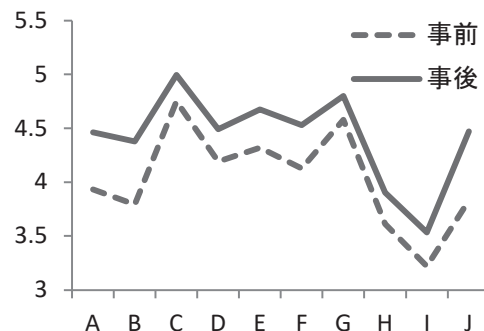
<全体>

全体の結果については、就業体験型のビジネスコース・パブリックコースの変化を大きく反映するものであるが、両コースの共通点として「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」及びB「組織で働くことへの理解」の変化が大きい。このことから、インターンシップへの参加により、社会人になる心構えに変化が生じることがわかる。



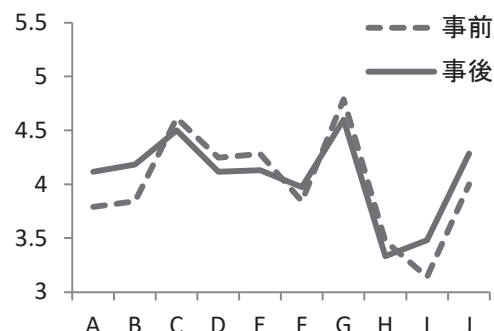
<ビジネスコース・パブリックコース>

全体的に事後調査が事前調査を上回る結果となった。特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」、B「組織で働くことへの理解」及び「自己主体性」の項目の中のJ「自己理解」の変化が大きい。これらは、実際の仕事の体験を通じた社会人との関わりが大きな変化をもたらしたと考えることができる。



<長期プロジェクトコース>

事前調査と事後調査の変化については、特に「就職レディネス」に関する項目の中のA「職場の人間関係への理解」及びB「組織で働くことへの理解」の変化が大きく、様々な職業、社会人との関わりながら長期間のプロジェクトを実行する過程が大きな変化をもたらしたと考えることができる。



資料8. 受講生意識調査集計結果

表 -1. 意識調査の指標と平均点

		実習前					実習後				
		ビジネス・パブリック		長期プロジェクト		全体	ビジネス・パブリック		長期プロジェクト		全体
		平均		平均		平均	平均		平均		平均
就職 レディ ネス	A 職場の人間関係への理解	4.42		4.42		4.42	4.88		4.55		4.84
		3.69		3.53		3.68	4.18		3.95		4.16
		3.68		3.42		3.66	4.32		3.85		4.28
	B 組織で働くことへの理解	4.33		4.21		4.32	4.66		4.60		4.65
C 学生と社会人の区別		3.71		3.95		3.73	4.34		4.15		4.32
		3.34		3.37		3.34	4.14		3.80		4.11
		5.05		4.79		5.03	5.13		4.50		5.07
		4.10		4.16		4.11	4.72		4.35		4.68
D ジェンダー問題への気づき		5.11		4.89		5.09	5.15		4.65		5.10
		3.72		3.95		3.74	4.28		3.90		4.25
		4.74		4.63		4.73	4.89		4.40		4.84
		4.12		4.16		4.12	4.30		4.05		4.28
E 実行力		4.32		4.32		4.32	4.73		4.05		4.66
		4.77		4.68		4.76	5.09		4.50		5.04
		3.87		3.84		3.87	4.21		3.84		4.17
		3.99		3.58		3.95	4.56		3.75		4.48
F 環境適応力		4.22		3.95		4.20	4.49		3.85		4.43
		4.18		4.00		4.16	4.54		4.32		4.52
		4.35		4.42		4.36	4.63		4.60		4.63
		4.27		4.58		4.29	4.57		4.25		4.54
G 柔軟な物事の見方		5.12		5.37		5.14	5.20		4.95		5.18
		3.80		3.42		3.77	4.09		3.35		4.02
		3.66		3.37		3.64	3.59		3.00		3.53
		3.37		3.63		3.39	4.03		3.65		3.99
H 生活規律		3.57		3.42		3.55	3.80		3.89		3.81
		2.53		2.37		2.51	2.69		2.55		2.68
		3.57		3.63		3.57	4.11		4.00		4.10
		4.18		4.26		4.18	4.82		4.70		4.81
I 社会へのコミット感		3.94		4.26		3.96	4.62		4.40		4.60
		3.37		3.47		3.38	3.97		3.75		3.95
J 自己理解		3.37		3.47		3.38	3.97		3.75		3.95
		3.37		3.47		3.38	3.97		3.75		3.95
		3.37		3.47		3.38	3.97		3.75		3.95
		3.37		3.47		3.38	3.97		3.75		3.95

2021 年度インターンシップ・プログラム実施報告書

発行日 2021 年 12 月

発行・編集 公益財団法人 大学コンソーシアム京都

教育事業部 インターンシップ事業推進室

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

TEL: (075) 353-9106 FAX (075) 353-9101

インターンシップ・プログラムポータルサイト

<http://consortiumkyoto-internship.jp/>

公益財団法人大学コンソーシアム京都ウェブサイト

<https://www.consortium.or.jp>
